

相国寺御用達

京名菓
雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表

現し創作した一世の名菓です。
大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に

お作りいたしております。
大切な方への心を込めた贈り物に、
京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子司
俵屋吉富

本店

京都市上京区室町通上立売上ル
電話 (075) 43212211

烏丸店

京都市上京区烏丸通上立売上ル
電話 (075) 43213101

図明

令和三年 夏号(第一一六号)

大本山相国寺
相国会本部



相国寺、慈照寺等行事休止、変更一覧（八月より十二月まで）

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、以下の行事を中止、縮小させていただきます。
今後の詳細につきましては相国寺派ホームページ等にてご確認ください。

URL <https://www.shokoku-ji.jp>



まるにくん
© 2021 相国寺

※発行時点での予定です。状況により変更となる場合があります。

表紙写真

『鹿苑寺金閣・舍利殿』

「金閣・舍利殿」落慶 —令和の屋根葺替工事終了—

（詳細は、北山だより98ページを参照）
撮影◎柴田明蘭



工事中の舍利殿



足場解体中の様子



素屋根を外した第三層



屋根葺替を終えた舍利殿

『温故知新』枯山水と雨庭——伝統に学ぶ都市デザイン

(詳細は、本文28ページを参照)

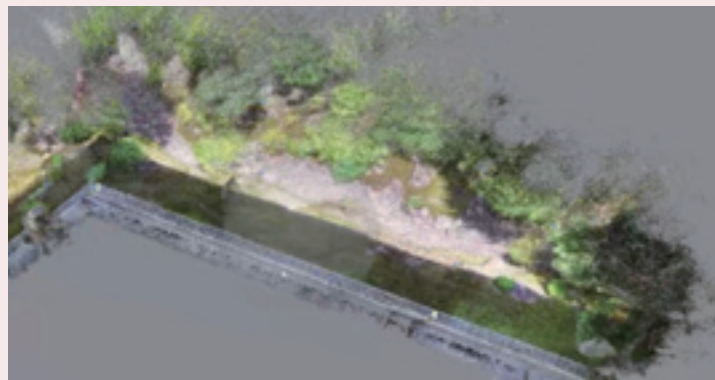
今回から伝統的雨庭研究会の寺院庭園の調査報告を、二回にわたり掲載します。「雨庭^{あめにあわ}」という表現を初めて目にする方も多いのではないのでしょうか。

近年の気候変動、雨の降り方の変化は、確実に人々の社会生活に何らかの直接的な影響を及ぼしており、その調査研究、対策が進められております。

そのような中、現存する寺院庭園が新たな都市のインフラ整備に応用できるのではないかと、という動きが出てまいりました。相国寺ではこの調査に協力で、今回のレポートから庭園が持つ新たな効果が見えてまいりました。



平成29年の調査風景



裏方丈庭園の3次元モデル

一枚の
写真から

相国寺に残るガラス乾板②「浴室前の老松」

解説◎柴田明蘭

今号は、相国寺法堂^{はつどう}北西角にあった立派な松の木を紹介します。残念ながらこの立派な松は現在ありません。よく見ると木の後ろや右側に写りこむ建物や屋根から、法堂の北西基壇前より浴室^{せんなんどう}(宣明)と塔頭の大光明寺の方向を撮影したものとわかりました。同地には代替わりした松の木もあったようですが、平成二年から九年にかけて行われた法堂の解体修理のあと、いつしかこの松も無くなり、現在は砂利敷きの参拝者用駐車場になっています。



浴室を囲う塀や大光明寺の垣根が現在の姿とは大きく異なり、撮影場所を特定するには写真家泣かせの1枚ですが、これだけ存在感のある立派な大松が、今は無くなってしまっており、少し残念な気持ちになりました。



一番大きな屋根の浴室は、慶長元年(1596)に造立、平成14年(2002)に修復復元されました。旧写真で茂みだった箇所は、参拝者用お手洗いとして整備されています。

承天閣だより

Jotenkaku Museum

現在の展観

「若冲と近世絵画」展

Ⅰ期 2021年4月29日(木祝)～2021年7月25日(日)
Ⅱ期 2021年8月1日(日)～2021年10月24日(日)

「若冲と近世絵画」展の会期中のみ、数量限定で伊藤若冲が相国寺に寄進した釈迦三尊像の御朱印を特別に授与させていただきます。



「若冲と近世絵画」展の展示風景



コロナウイルス感染症対策として館内のベンチには間隔をあけていただくように張り紙を設置

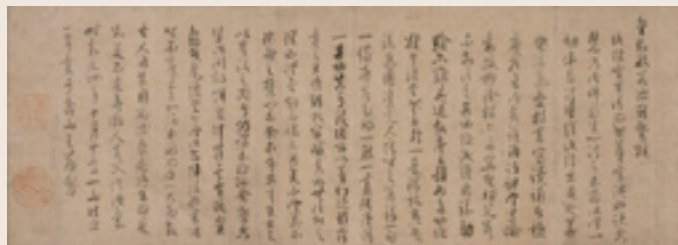
次期展覧会予定

「相国寺・金閣・銀閣宝物展 禅寺の学問／相国寺の歴史と寺宝Ⅱ」

2021年11月23日(火祝)～2022年1月23日(日)

京都五山第二位の寺格を有する相国寺は、中世より漢詩文などに優れた禅僧を多く輩出した、五山文学の中心地でした。

本展観では、相国寺や塔頭寺院に伝来する漢籍を確認し、禅寺に蓄積された知の体系を探ります。あわせて、相国寺の歴史を通観する展示、「相国寺の歴史と寺宝」の第二弾をお届けいたします。



初公開 一山一寧墨蹟 金剛経序 鎌倉時代 重要文化財 相国寺蔵



十牛図 周文筆 室町時代 相国寺蔵



白楽天図 無学祖元賛 伝趙子昂筆 元時代 重要文化財 鹿苑寺蔵

暑中お見舞い申し上げます

内局



令和三年 盛夏

相国会総裁

有馬頼底
副総裁 佐分宗順
会長 片岡宗三
本部長 江上正道

管長 承天閣美術館名誉館長

有馬頼底

宗務長 承天閣美術館館長

佐分宗順

庶務部長 長栄寺住職

鈴木景雲

法務部長 慈照院副住職

久山哲永

教務部長 眞如寺住職

江上正道

参務 光照寺住職

荒木文紹

財務・庶務部長 養源院副住職

平塚景山

教学・庶務部長 長得院副住職

有浦宗健

承天閣美術館事務局長 是心寺住職

和田賢明

同 参事 瑞春院副住職

須賀集信

同 鹿苑寺執事長 普廣院住職

山本雅晶

同 執事 林光院副住職

澤宗秀

同 慈照寺執事長 林光院住職

澤宗泰

同 執事 豊光寺副住職

佐分昭文

宗議会議員

第一教区 慈照院住職

久山隆昭

第二教区 竹林寺住職

牛江宗道

第三教区 見性寺住職

梶谷承忍

第四教区 善應寺住職

五十嵐祖傳

第五教区 眞乗寺住職

木下雅教

第六教区 富田寺住職

加藤文保

龍源寺住職

田中恵山

宗務支所正副長

第一教区 林光院住職(正)

澤宗泰

第二教区 天光明寺住職(副)

矢野謙堂

第三教区 竹林寺住職(正)

牛江宗道

第四教区 眞乗寺住職(正)

鈴木景雲

第五教区 本派庶務部長兼任

鈴木景雲

第六教区 園松寺住職(副)

木下雅教

富田寺住職(正)

本田真人

龍源寺住職(正)

加藤文保

相国寺、慈照寺等行事休止、変更一覧	1
「金閣・舍利殿」落慶―令和の屋根葺替工事終了―	2
『温故知新』枯山水と雨庭―伝統に学ぶ都市デザイン―	3
相国寺の今昔 一枚の写真から 相国寺に残るガラス乾板②「浴室前の老松」	4
承天閣だより「若冲と近世絵画」展	8
巻頭特集 コロナ禍における「円明法話」有馬頼底管長 特別インタビュー…管長大龍窟 有馬頼底	18
御挨拶	22
「円明法話」コロナ禍の中で最も大事なこと	25
「円明法話」自我と向き合うこと―維摩經の教え―	28
特別レポート『温故知新』枯山水と雨庭―伝統に学ぶ都市デザイン(前編)―	32
陽だまりの人	42
寄稿 牛に関するお話「眞如寺客殿庭園の牛塔」	45
本山だより	53
坐禅会のご案内	56
教区だより	66
教化活動委員会活動報告	72
相国寺史編纂室だより	76
相国寺の庭園(第十回(最終回)花蓮	92
NHK VIDEO「ライジング若冲〜天才かく覚醒せり〜」	97
北山だより	98
東山だより	99
相国寺 秋の特別拝観	100
宝物拝見「龍王図」「開山堂扁額 七朝國師徽號」	101
心のすがた	104

U R L <https://www.shokoku-ji.jp>
E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)



本誌『円明』のバックナンバーについて、平成20年夏発行の第90号以降は、相国寺派ホームページ内でご覧いただくことができます。



有馬頼底管長 特別インタビュー

8

—— コロナ禍中で昨年から行事が減り、管長猥下にお出ましいただく事が大変少なくなっております。そこでこの度『円明』夏号の読者に向けて、インタビューをさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

—— 最初に「米寿をお迎えになって」ということで一言頂戴したいと思います。

管長 米寿、八十八だろう。私の両親は三十

台で死んでしまった。だから私は八十八迄生きられるとは思っていなかった。

よくぞここまで
生きてこられたな、

と思っています。



師匠の^{だいぞくつ}大象窟(大津櫛堂老師)がジャスト八十、厳密に言ったら七十九だった。止^し庵^{あん}(梶谷宗忍老師)も大体それぐらい。無^む為^い室^{しつ}(山崎大耕老師)だけが九十二かな。だからせてその辺まで行くかなあと思って、こうなったらね。

八十八だから、あと三年程で九十だ。九十ぐらいまで行くかなと思っていてるけれど、それは分からないね。人間だから微妙なところだが、よくぞここまで生きてこられたな、と思っています。

そして、私も八十八歳の記念に何か「これ」というものを遺しておきたいな、とは思いますがね。まあ、臨済禅師の松を植えた話じゃないけれども(臨済栽松)、後人の標榜となすために木を植えるというのは、非常に重要なことなんでね。やっぱり樹木を大事にしないくちやね。梅^{ばい}莊^{そう}顯^{けん}常^{じょう}禪^{ぜん}師^し(大^{だい}典^{てん}禪^{ぜん}師^し・相^{さう}國^{こく}寺^じ)

9



世界中の人がコロナに苦しんでいるのならば、
同じ目線に立ってみんなと一緒に苦しむことが仏教者である。

第一一三世も、相国寺境内に植えられた「大龍櫻」も大変立派になりましたね。では次に、長引くコロナ禍も二年目に入っておりますが、仏教徒としての生き方ですとか過ごし方を、主に檀信徒の方々に向けて教えていただけますでしょうか。

—— 以前、相国寺境内に植えられた「大龍櫻」も大変立派になりましたね。では次に、長引くコロナ禍も二年目に入っておりますが、仏教徒としての生き方ですとか過ごし方を、主に檀信徒の方々に向けて教えていただけますでしょうか。

管長 そうですね。やはりこれは日本の、日本国民というよりはむしろ世界中でね、皆さんが病んでいる。私はいつもこれについてはね、^{ゆいまこじ}維摩居士の話をするんです。

維摩居士というのはある意味完璧な人なんです。そんな人が病気になる、なんていうことは考えられないと。ところがお釈迦様は賢いんだね。「よし、誰か遣いに行ってきた、あなたは何で病気になるのか、と聞いて来い」と。ところが誰も嫌がって行かない。ちょうどそこへ文殊菩薩さんが通りがかった。で、「文殊さんよ、維摩居士のところへ行ったら、問答して来い」と。文殊さんが「そうですか、私でいいのですか」と言うから「うん、行ってこい」と遣わした。

それで、文殊さんが行くと、維摩居士が出てくるんですね。有名な話ですが、「居士さん、あなたは最高最大の智者ですよ。それが

病気なんかするはずがないじゃないですか。

何であなたが病気になるんですか」と文殊さんが聞くと、維摩居士が「衆生病むが為に、我もまた病む」と言われた。「みんなが苦しんでいるじゃないかと。だから私も一緒に苦しむんだ」と。維摩居士は病の原因を知っておるのに、あえて治そうとしない。文殊さんは「わかりました」と納得して、お釈迦さんのところに帰られた。まさに維摩居士の言葉は、仏教者としての、あるべき姿についておられる。お釈迦様はそのことを解っておられる。

そういうことで、コロナがコロナであるとしても、みんなが、国民が、世界中の人がコロナに苦しんでいるのならば、同じ目線に立ってみんなと一緒に苦しむことが仏教者である、と。大慈悲心をもつこと。それが病に対する仏教者としてのあり方でしょうね。

それから、『^{へきがんろく}碧巖録』の第三則に有名な

「日面佛にちめんぶつ月面佛がちめんぶつ」という話がある。

馬祖道一ばそどういつ禪師（八世紀・唐代中期）が重い病気になる。見舞いの修行者が「和尚、近日きんじつ尊候そんこう如何いかん」、和尚さん近頃ご機嫌いかがですか、と尋ねた。すると馬祖禪師は「日面佛月面佛」と言ったそうだが、「日面佛のように寿命がとて長い佛さんいれば、月面佛のように寿命がわずかひと晩の佛さんいるではないか。昼間だろうと、夜だろうと、長い短いは関係ないだろう」と。

これでその修行者が納得したかどうかは知りませんが、『碧巖録』にはそうありますね。仏教者としてね、コロナはコロナとして受け入れていかなきゃいかんだろう。昼も夜もね。それで一生懸命に養生しなさい、と。コロナにかかったら、じたばたせずね、そういう事として受け入れなさい、と。そういう態度がふさわしいんじゃないか、専一に静養

しなさい、ということですね。

—— ありがとうございます。病など気にするな、泰然自若に生きよ、という仏教の、禪の教えですね。

では、次にお寺側、僧侶は、このような状況下でどのように活動していくべきか、お示しください。

管長 そうだね。「病氣」と言ったら病院ですね、療養。しかし本来「病氣」と言うのは、氣を病むことだ。気持ちの問題。だから、医療にただお任せするんじゃないくて、医療には無い世界がある。精神の世界。そこを、どう患者さんに説くかですね。病氣になったらすぐ医者にかかるうとするけれども、それだけでは治らない面があるんだと。その辺を、仏教者としてどう説くかですよ。

それは、人それぞれの生き方。やはり各家庭環境もあるし、親子兄弟の関係もある。

そういうところを全部わきまえて、そして苦しい病にかかっている人達を、説得していかねばいけない。医者の技術、医療ばっかりに頼っているのはダメなんです。やはりそれ以外にも様々な形があるんだと。やはりお坊さんはね、仏教者だから、仏の教えを合理的に説明ができればいけない。それをいかに乗り切っていくか、と。そこを説得するのが、お坊さんの役目ですね。

—— 管長猥下はいつも「文化」こそが大切であると、おっしゃっておられますけれども、この文化継承について、若い世代への提言を、お伺いしたいと思います。

管長 私は一度、大象老漢（天津櫪堂老師）に

「禅文化のとらえ方はどうしたらいいんでしょうか」と聞いたことがある。その時に大象窟がおっしゃったことは、「見てきたことばかり言ってもダメだぞ。やはりね、体験だ。体験を通して、その経験をを通して、文化を学ばなきゃいかん」と。

経験することによって
分かってくることから
必ずありますから。

そこで、今度は「文化とは一体何なんだ」ということになって、止止庵（梶谷宗忍老師）に「文化っていうこと書いて来い」と言われたんだ。

すると、止止庵は便箋に三枚ほど書いてくれたかな。それを老漢が読まれて、「これはこれで良い。しかし貴公はね、体験をしてい

ないからこういうことが書けるんだ。体験したら書けないよ。私は少しでも多くのことを経験して、多くのものを見て、それを納得する」とおっしゃった。それこそが「文化」であると思います。

「じょうてんかく承天閣美術館」を創る時もそうでした。その精神ね。経験することによって分かってくるのが必ずありますから。それが集積して、だんだん積もり積もっていくと、もう自分の精神の中に、何にも無くなる、と。「無」になっちゃう。それが禅文化の一つの生き方であろう、と。そういうことだと思えますね。「これが文化である」と指摘したら、それはもう文化ではないんですよ。それなら、文化というのは何も無いのかと言うと、ちゃんとある。それは、体験を

やはり文化財というものは、
埃をかぶっていてはいかん。

通して納得していくことでしかありえない。それを積み重ねていくことが、一つの大きな文化に繋がるんだと思います。やはり様々



なことを、まずは相国寺派をはじめ多くのお坊さんに経験してほしいですね。

—— 体験の積み重ね、これが一番であって、それをお寺にお参りに来て下さる方、承天閣美術館に来て下さる方に少しでも味わっていただくというのが、宗門の役割ということですね。

管長 なぜ「承天閣」を創ったか言いますとね、それまでは、相国寺には二つの蔵、「北蔵」と「南蔵」しかなかった。南蔵には、法具とか打敷とか戸帳が入っておりました。北蔵にはね、何やらいっぱい入っていました。

ある時ある先生が、「有馬君、蔵にあれがあるだろう」と言われる。「いや見たことないですよ」と答えたんだが、先生は「私が調査した、あれはちゃんとした物だから大事に

しなさいよ」と。

当時は全然、何が何やらわからなかった。それで慌てて北蔵へ行ってみたわけです。蔵の中に入って私がびっくりしたのは、一番隅っこの狭いところに箱が二つあった。それを出してみると、「座屏ざびん」という和尚が座る場所の横に置く小屏風が、埃だらけで出てきました。

それからですよ。やはり文化財というものは、埃をかぶっていてはいかん、と。われわれ管理する者が、常にそれを把握しておかなきゃいけない。そうすると自然と管理が行き届く。だからこれは、一般公開をすべきだ、と。一般公開をすると、公開をするために掃除をしなきゃいかん。埃を払うと、おのずから文化財が綺麗になる。そういうことを皆さんにお願いして、それである承天閣美術館をこしらえた。果たして、それから北蔵の物はほとんど承天閣に移しましたね。今は完全な

形で管理されるようになりました。京都五山の中で、相国寺の右に出る文化財の管理施設はまず無いだろう、と私は思っています。

理想とするところは、やはり一般公開することですね。文化財っていうのは一人の個人のものじゃない。寺に伝来したからといって寺だけのものではないんだ、と。民衆のものなんだ、と。そういった意味で、やっぱり公開をしなければいけないですね。それを積み重ねていつて文化財管理が成り立つんだ、と思ってます。

—— 若い世代に何か一言頂戴できますか。

管長 やはり若い人たちに、勉強して欲しいですね。何でも興味をもって、訳が分からんから見過ぎすんじゃないかってね。訳が分らんうちに、それをだんだんと覚えていく段階で、

好奇心を持つこと。

それをやはり若い人たちに、学んでほしいですね。

—— たくさんのお話を聞かせていただきました。誌面を通じて多くの方に感じていただきたいと思います。コロナ禍中どうぞお体を大切にしてください。これからも御教導賜りたいと思います。本日は、長時間誠に有難うございました。

管長 そんなようなことで、はい、有難うございました。

令和三年五月十一日…大光明寺にて

聞き手・撮影・教学部



自分の身につくんだ。そういうことを勉強して味わってほしいね。

—— 最近はデジタル化やAI化が益々進んではいますけれども、そういうものではなくて。

管長 実物を触るということ。それが非常に重要なんです。掛物でもそうですけど、掛け軸をかけるとき、巻いたり解いたりするその動作は、もうすでに文化財に触れてるわけですね。それを繰り返し。少なくとも、各お寺には何かあるはずだから。そういうことを通して学んでいくということが重要である、と。頭に入るんです。「ああ、そこにあつたな」と、ふいに思い出す。そこに行くところとある、と。そして好奇心を持つこと。そういうことを、やはり若い人たちに学んでほしいですね。

御挨拶



宗務総長 佐分宗順

相国寺派寺院各位、檀信徒及び相国会会員の皆様、暑中お見舞い申し上げます。本年前半期は昨年につき新型コロナウイルス感染症対策に翻弄されましたが、相国寺本山での寺務作業や会議などは文書会議、メールやチャット、ズームなどを利用して効率的に進めて参りました。三月の定期宗会はおかげをもちまして、すべての議案を全教区宗議会議員の皆様にご承認頂き、無事終了することができました。また諸行事に関しては、参拝者の案内などを縮小しながらも無事厳修し、特に六月の大きな法要である「観音懺法会」は稽古を積んだ

のちに、例年通り務めることができました。今のところ本山、鹿苑寺、慈照寺の寺務所内は感染者を出すことなく無事経過しております。

昨年一月に中国武漢で発生したコロナウイルス感染症は短期間に世界に拡大し、日本でも多くの感染者と犠牲者を出しました。日本においては現在まで、昨年四月に第一回目の緊急事態宣言が出され、五月の終わりに収束の兆しが見え一旦宣言は解除されましたが、冬にかけ再び感染拡大して本年一月には二回目の緊急事態宣言が出される事態となりました。三月に入り二カ月ぶりに宣言は解除されましたが、四月後半、三回目の緊急事態宣言が発令されました。六月後半、宣言は解除されましたが、再燃の警戒が続いています。

この間、ようやくワクチン接種が進み、地域によって格差はありますが、日本でも接種率は確実に上がっております。米国やイギリスをはじめワクチン接種が進んでいる国の急速な感染者の減少、重傷者や死者の数が大きく減少

していることから、コロナ禍収束に向けて希望が持てる状況になってきました。また七月のオリンピックも感染対策をしたうえで開催が決まっております。この大会を無事成功させることが開催地である日本の役割であり、その成功が世界のこれからの新しい第一歩となることを期待したいと思います。

今回の新型コロナウイルス(COVID-19)は、その感染をゼロにすることはできません。ウイルスと人間は長い歴史の中で共存してきた面もあり、ワクチンや治療薬の開発が進めば、従来のインフルエンザと同一ような警戒のレベルで収まることになるでしょう。昨年のコロナ禍以後、風邪やインフルエンザの数は大きく減少しているそうです(厚生労働省のインフルエンザ発生状況グラフ参照)。毎年風邪をひいていた私もコロナ禍が始まった昨年以來ひいておりません。うがいや手洗い、アルコール消毒、マスク、ソーシャルディスタンスなどの感染対策の有効性が証明されたようなものです。

未知のウイルスゆえに初期には混乱しましたが、この禍を通じて、日本の医療体制の不備や緊急時の対応の不備等が浮き彫りになりました。コロナ禍が収束に向かったとしても、これらの反省に立って、法整備や医療体制の整備も続けてなされなければなりません。

相国寺派においても、今後起こりうる災害やパンデミックなどの緊急時の備えという観点に立ち、コロナ禍において経済的にも大きな打撃を受けた寺院運営の立て直しに取り組みたいと思います。従来の人事配置や業務の効率化、経費の削減を図り、これからの寺院経営の再編に取り組みます。

猛暑に向かいますが、皆様にはどうかご自愛いただき、暑さとコロナ禍を乗り切っていただきたいと願っております。どうぞ引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

円明法話

「コロナウイルスの時代だからこそ、説くべきこと、やるべきこと」という内容で、「臨済宗連合各派布教師会」の布教師資格をお持ちである相国寺派の和尚様方に執筆をお願い致しました。

例年、春秋期を中心に布教師の定期巡教が全国各地で開催されており、各教区、各寺院で法話を聞いていただく機会がありました。コロナ禍によりそれが出来ない中で「誌面法話」を企画致しました。

コロナ禍の中で最も大事なこと

天正寺住職 佐々木 契堂

コロナ禍で世界中がたいへんなことになっています。直接的な被害(患者さんや、医療関係者等)もたいへんですが、人の移動や直接の交流を減らさなくてはならないことからくる間接的な被害も甚大です。

このような苦境をいかに乗り越えていくかに関して、さまざまな提言がなされていますが、禅僧(仏教者)として、「禍」に関して

少し述べさせていただきます。

ごく大雑把に分けると、「禍」には、台風や地震、津波など「天災」と呼ばれる禍と、それとは対極的に、自分自身が作り出してしまふ禍と、この二つの方向性があると思います。もちろんこの二つは、入り混じっている場合も多く、例えば「津波」自体は、ほぼ天災でしょうが、大地震が起きた後で裏山に二十

メートルほどでも登れば助かったのにもかかわらず、そうせずに低い場所に留まっていた津波に飲み込まれてしまった場合では、

「自ら作った禍(人災)」である割合も大きいと言えるでしょう。

今から二千三百年ほど前に書かれた『孟子』という古典で、孟子は次の言葉を二度繰り返し言っています。『孟子(上)』小林勝人訳注、岩波文庫」

「天の作せる^な孽は^な猶^な避^さくべきも、自ら作せる^の孽は^な遁^はるべからず」

天が人間に下す禍は、それを避けるよう気をつけたり、努力することができます。コロナ禍でしたら、例えば、三密を避けることや、効果的なワクチンを作ることなど、努力するすべがありますし、それはとても大事なわけです。天災に関しては、みんなで助け合ったり、対策方法を忘れないように啓発するこ

とが可能です。

このように「天が作る禍」は逃れるすべを講じることができそうですが、「自分が作る禍」は逃れようがないと、孟子は言うのです。かりに周りの人がその人を禍から助けようとしても、自ら自分に対して禍を作っているとしたら、自分がそれに気づき止めない限りは、どうしようもないわけです。

「自分で作るわざわい」のよくある一例として、孟子は、為政者(政治家)と民衆のそれぞれの場合で例を挙げています。まず、政治家の例…

「今」の君主は「屈辱をきらいながら、「その原因である」悪政をつづけているのは、ちょうど濡れたくないと思いつながらわざわざ低い水溜りにつかっているようなもので、矛盾も甚しい。」

政治家が、「支持率を落としたくない。自ら

の党の当選者を減らしたくない」などと思いつながら、悪政を続けているとしたら、それはまさに「自ら作る禍」でしょう。

民衆の例に関しても、孟子は次のように述べています。

「今かりに国家が平穩でゆとりがあるとして、それをよいことに大いに楽しみ怠けあそぶならば、これは自分から禍を招くというもの。」

国や世界が仮に平和で、豊かであったとしても、それをよいことに、安逸にふけり、自分勝手に振る舞っていたならば、必ず「自ら作る禍」を招いてしまうでしょう。

孟子は、政治家であってもどんな職業や立場の人であっても、平和であってもなくても、どのような立場や状況であろうと、「是れ自ら禍を求むるなり」という傾向やクセが、人間にあるということを実に深く見抜いて

います。

『孟子』が二千年以上たっても全然古くならないのは、「人間は自分で自分に禍を作る傾向がある」という人間の本質をはっきり見抜いているからだと思います。

例えば、「コロナ禍で家族が家で過ごす時間が長くなった」が増え、それにつれ家庭内での暴力も増えていると報告されています。これは「コロナウイルス」自体の「禍」ではなく、コロナウイルスをきっかけに、「自分が作った禍なのだ」と気づくときには、自分の行動や生きる姿勢も変わると思います。

どのような状況にあっても、その状況や課題を生きているのは自分なのだということを定め、「主となって生きる」道を歩んでいくことが、コロナ禍にあつて最も大切なことではないかと、禅を学ぶ中で、私は思っております。

自我と向き合うこと——維摩経の教え

養源院副住職 平塚景山

お寺の前を通りますと、掲示板にお寺からの教えやメッセージが書かれており、ふと足を留めて言葉を読んでしまいます。そんな掲示板にも大賞があるのをご存知でしょうか？毎年、「輝け！お寺の掲示板大賞」（仏教伝道協会主催）で全国の様々な掲示板が受賞しており昨年、令和二年の大賞は、「コロナより怖いのは人間だった」（熊本県・浄土真宗本願寺派明導寺）でした。この言葉は、コロナ禍で外出自粛の際、マスクやトイレットペーパーなどの買い占めが相次ぎ、殺気立った客への対応に追われた神奈川県ドラッグストアの店員さんがツイッターに投稿したものです。優しかった人々が、殺気立ち不満をぶつけてきて、今まで笑顔だったお客様が、全員鬼に

見えたそうです。

現在（令和三年五月）は店頭でマスク等は豊富に並ぶようになりましたが、昨年の一月末頃は、見事に店頭から在庫が消え私もマスクや消毒液を探して何軒もお店を回った記憶があります。非常事態になると人間は我を忘れ必要以上に物を求めてしまい、その欲求が満たされないと怒り、時に他人を傷つけます。お釈迦様は、このような行為を起こす原因である煩惱から離れるよう説いています。では、なぜ私たちにこのような煩惱がおこるのでしょうか。それは人間に自我というものがあるからです。自我とはエゴ。執著です。

自分が正しい、家族が正しい、仲間が正しい、

自国が正しい……と自分本位な考えは次第に排他的になり差別や争い、延いては戦争の起因ともなるのです。

しかしながら、人間誰しもが多少なりとも自分本位であり自我があるのではないでしょう。幸福を願い真理を求める心もまた自我があるからなのです。

相国寺では明治時代、初代管長である獨園禪師が始められた在家を対象にした「維摩会」という坐禅会があります。この「維摩会」の名前の由来は維摩詰という居士(在家信者)からきています。維摩居士が主人公の『維摩経』という大乘經典の中では、維摩居士と彼の見舞に行った文殊菩薩との問答が繰り広げられます。第八章「仏道品」の中にこのような一節があります。維摩居士が文殊菩薩に「如来(仏)の種(条件)とはなんですか」と問いますと、

「身体を種とし、無明(煩惱)、有愛(執著)、貪り、瞋り、迷妄……いうならば一切の煩惱がみな仏となるべき種です。」

と文殊菩薩は答え、またその理由について、「自分だけが悟りの境地に入り衆生教化を忘れたものは本当の悟りではありません。たとえば、高原の陸地には蓮は生えません。汚泥の中からこそ蓮華は咲くのです。むしろ煩惱の泥の中にいる衆生が仏たるべき特性を起こすほかありません。自我が須弥山のように高いほど無上の菩提心を起こすのです。だからこそ一切の煩惱が如来となる種であると感じるべきです。」

と説きます。

独善主義の悟りでは本当の悟りとはいえず、衆生とともに煩惱の中で衆生済度することが悟りである。そして、煩惱や自我があ

るからこそ救いや悟りを求める心が起こる。つまりは、煩惱即菩提。煩惱や自我に仏(悟り)があると文殊菩薩は説くのです。

自我こそが人間を人間たらしめる要素であり、自我があるからこそ人生はより味わい深くなるといえます。しかしながら、いったん自我を制御できなくなると普段は優しい人達でもマスク等を求めて店員さんを責めるような行き過ぎた行為をしてしまいます。コロナ禍で私たちの生活は変わりました。

このような非常事態では普段、表に顔を出さない自我がむき出しになり排他的な行動をとりがちです。だからこそ、己の中から湧き上がる自我とどのように向き合うかが大切なのではないでしょうか？ 私共、僧侶の仏道修行は自我と向き合い自我をコントロールする為に社会生活と共に坐禅や読経を修します。在家者ならば仕事や家事、生活の一つ

一つを心を込めて行うことが、自我と向き合う仏道修行といえます。

日々の生活のなかで自己をみつめ、自我と向き合うことにより、本来生まれ持った仏の種から蓮の華を咲かせることができるのです。

●参考図書 『維摩経』『勝鬘経』 中村元

『維摩経講話』 鎌田茂雄 講談社学術文庫



『温故知新』 枯山水と雨庭―伝統に学ぶ都市デザイン（前編）

伝統的雨庭研究会

（巻頭カラー2ページを参照）

現代の都市はコンクリートやアスファルトのような、雨水を貯めたり浸み込ませたりしにくい材料で覆われています。そこに地球温暖化の影響が指摘される豪雨が急襲することで、雨水排水施設や河川空間に雨水が一気に集まり、あっけなく溢れてしまうのが「都市型水害」です。昨年（令和二年）七月、国土交通省が「流域治水」の推進を決め、法整備を行いました。これはダムの操作や排水施設の強化だけでなく、土地利用の見直しを含めて、水害に幅広い対策を講ずることをめざすものです。とくに都市部においては、自然のもつ多様なはたらきをいかす社会基盤である「グリーンインフラ」の導入が特徴です。グリーンインフラには雨水の一時的な貯留と浸透のはたらきをもつお庭すなわち「雨庭」が、重要な要素技術として含まれます。

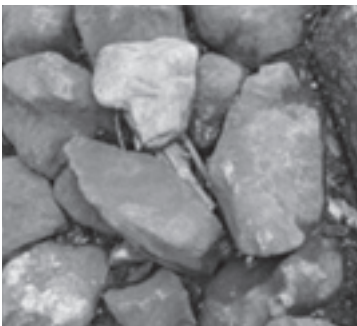
「雨庭」・Rain garden は近年、世界各地で都市グリーンインフラの手法として導入が進みつつあります。京都市では平成二十九年から四条堀川交差点の角地を皮切りに、市の施設

として雨庭がつくられつつあります。

雨庭は緑陰によって人々に落ち着いた心持ちをもたらすだけでなく、雨水の流出を遅らせて、水害を軽減するはたらきをもちます。私たちは相国寺裏方丈庭園の枯山水・枯流からは、大雨の時も雨水が外に流れ出したことはいまままでないのではないかとというお話を伺っていました。そこでこの枯流には、建物の大きな屋根に降った雨水を、お庭の敷地内に一時的にとどめて外に出さず、大水の危険を軽くする実質的はたらきがあるのではないか、また同様の伝統的なお庭の雨水管理機能をひろく科学的に調べることで、日本の風土に適した雨庭のあり方を提案できるのではないかと考えました。



機器設置風景



設置された水位計



設置された定点観測カメラ

コロナ禍で迎える二度目の梅雨入りにあわせて、相国寺裏方丈庭園および相国寺山外塔頭・眞如寺境内の雨水のさばき方について、科学的な調査を実施させていただいています。これは私たち「伝統的雨庭研究会」が平成三十年度に日本学術振興会・科学研究費の助成を受けてとりくんでいる研究課題「伝統的な枯山水庭園の雨水管理機能の評価に基づく都市型雨庭のデザイン」のための調査です。近年激しさと頻度を増しつつある豪雨災害への対策を、伝統的な空間の設えに学び、現代の都市デザインに向けて新たに考案することが目的です。

平成二十九年のはじめに、相国寺様にご相談し、裏方丈庭園の雨水観測のご許可をいただきました。その年の梅雨の時期から実施した調査では、自動記録式小型カメラを三基、枯流の目立たない位置に設置させていただきました。また、お庭の全体をビデオカメラで撮影して三次元のモデルに起こし、三基のカメラでとらえた貯留雨水の水位から、



定点観測カメラ画像(晴天時)



定点観測カメラ画像(雨天時)

どれだけの水量が貯留しているかがわかるような分析を行いました。最寄りの公的な雨量観測記録(京都府庁地点)によれば、六月二十一日の降雨が観測期間のなかで最大であり、約五十二トンの雨水がこのお庭と方丈の屋根に降ったと推定されました。もちろんこの雨水は枯流から溢れることなく、雨が止んだ後ただちに完全に浸透したことが映像から確認できました。枯流の容量は三百トンを超えます。これだけの容量があれば、浸透がまったくないと仮定しても、四百ミリを超える雨をこの枯流は一時的にまとめて確実にとどめることができることになります。この量は京都市の平均年降水量の約四分の一に相当します。このように相国寺裏方丈庭園のみごとな枯流は、あたかも深山幽谷を想起させる稀有の趣きがあることに加えて、その雨水流出の抑制効果によって、京都市の都市型水害の軽減に、一定の貢献をしていることがわかります。

伝統的雨庭研究会

会長 森本 幸裕 (京都大学名誉教授／京都市都市緑化協会理事長)

幹事長 山下 三平 (九州産業大学 教授)

深町 加津枝 (京都大学 准教授)

丹羽 英之 (京都先端科学大学 教授)

佐藤 正吾 (京都市都市緑化協会 企画総務課長)

阿野 晃秀 (京都先端科学大学 講師)

「陽だまりの人」

演劇塾 長田学舎 斉藤浩未

二〇一六年十二月、知人からある居酒屋のお手伝いをしてほしいと頼まれた。自宅から一時間もかかる場所だったが、夕飯付きという甘い誘惑に負け、あっさりと引き受けてしまった。

知人が書いてくれた地図を片手にそのお店に行った。駅前ではあるが、お店はかなり古く廃れたビルの地下街にあった。階段を降りると、フロア全体にぎっしりとお店が並んでいたが、ほとんどシャッターが閉まっていて、営業しているのはほんのわずかだった。

『居酒屋ココ』と手書きで書かれた暖簾が目印。十席程のカウンターだけがある飾り気のない小さなお店だった。

「よう来てくれたな」

カウンターの奥から一人の男性が出て来た。細身で背が高く、歳は私の両親と変わらない感じに見えた。入口に一番近いカウンターの席をうながされ座ると、魚の煮つけとほかほかの白ご飯が目の前に運ばれてきた。

「Nです。急なお願いでごめんな。よろしくお願いします」

と丁寧な挨拶を下さった。

N氏お手製の夕飯が私への報酬となるわけか。個人でされている居酒屋のお手伝いだし、バタバタもせず暇で、ゆっくり洗い物でもして、それでこんな美味しい夕飯がタダで食べられるならラッキー!と思った。



暫くすると、どやどやと数名のお客さんが入ってきた。

「マスター元氣？」

「この子が手伝いしてくれる子？」

「どこから来たん？名前は何？」

お店の中が一気に賑やかになった。

「浩未ちゃんビール入れて」

「僕チューハイ」

「私はハイボール」

いきなり注文殺到。N氏は何がどこにあるのかの説明をしてくれるわけでもなく早速お客さんと話し込んでいる。

そうか、わかった、よし。グラスはどこや。氷はここにある。お酒、炭酸、マドラーと。

「浩未ちゃん突き出し頂戴、これこれ」

カウンターに出ている大鉢から入れるんやね、お客さんに教わる。なんやいきなりめっちゃめっちゃやな。

「浩未ちゃん歌入れて」

歌？カラオケがあるんかいな。機械どこや、これか。はいはい、何を歌うんかいな。

N氏は何も言わない。代わりにお客さんが色々と教えてくれる。みんなN氏の

事を古くからよく知っているようだった。そしてお客さん同士も皆知り合いのようだった。

N氏はつい最近まで違う場所で奥様と一緒に居酒屋を営んでいたがそこをたたみ、この地下街に移った。そしてこのビルは二年後には取り壊しが決まっていいて、二年という限られた期間だけこのお店を営業すること——。

でも、どうしてわざわざこの場所に移って来たのだろうか。

「浩未ちゃん、ココに来てくれてありがとう」

お客さんが私に御礼を言ってくれた。そして、二年間、N氏の事をよろしくと。

ココには毎日お客さんがやって来る。決して暇ではなかった。老若男女、皆、N氏の以前からのお客さんで知り合いだ。

「マスター会いに来たでー」皆そういってお店に入ってくる。

「浩未ちゃん、これから頼むで」と皆私の肩をたたいて帰って行く。

ある夜、お客さんがマスターに歌をリクエストした。そういやN氏の歌、初めて聞くなあ。カラオケの機械操作は私の仕事、はい、入れましたよと。

えええっ！聞いてびっくり。話声と違って、歌うととてもいい声！伸びやかで艶やかで何と表現すればよいのだろう。美、雅、雄大、そしてなんとも奥深い……。

私が呆然としているとお客さんが教えてくれた。

N氏は若かりし頃、プロの歌手だった。

とある歌合戦では日本国民の誰しもが知っている某有名演歌歌手と決勝争いをしたとか。(優勝は某有名演歌歌手の方でした)

お客さんは皆言う。N氏にお世話になった。可愛がってもらった。大切な家族同然だと。

皆、N氏の事が大好きで話を聞いてもらいたくて、また時には優しく叱ってもらいたい。N氏は多くを語らずいつもあたたかな笑顔と心で皆を包み込む。それに癒され励まされ元気になれるのだ。私にもだんだんN氏の優しさとぬくもりが伝わってくるようになった。



ある時、私が自身の演劇活動の事を何となく話したら、

「そんな大事な事、何で早く言わへんのか」と言ってそれから毎晩、来るお客さん全員に、我が事のように私の演劇活動の宣伝を一生懸命してくれた。

「この子女優さんなんやで」って嬉しそうに言って、近隣のお店やN氏の馴染みの店にもしょっちゅう私を連れてまわった。そんな人なのだ。

ココに通い出して一ヶ月になろうかという日、いつも賑やかなお客さん達が目を赤くして店に訪れた。N氏は皆に、ごめんな、ありがとうと深々と頭を下げていた。

N氏には十五歳年下の奥様がいらしたそうで、その奥様が五十五歳という若さでこの世を去られたのだ。奥様の体調を考え以前のお店はたまたみ規模を小さくして、二年間は二人でゆっくりやろう、商売好きな奥様の生きる力になればとこの地下街にやって来たのだ。

奥様の体調が思わしくなくお店に出られなくなったから、奥様の代わりにお手伝いをする人が必要だったのだ。お客さん達がいつも私にかけてくれる、来てくれてありがとう、頼むで、その言葉の意味がようやくわかった。奥様が亡くなられてもすぐにお店を開けたのはN氏が奥様と交わした約束があったからなのだ。奥様との約束、居酒屋ココを二年間は絶対に続ける。十五歳も年下の奥様が自分

より先に亡くなるなんて誰が想像できよう。あと一年あと半年と自分を励ましながらN氏は店を開け続けた。

二〇一八年十二月二十八日、約束の二年間を勤め上げ、居酒屋ココは閉店した。その夜はご想像の通り、朝までどんちゃん騒ぎのしっちゃかめっちゃかお祭り騒ぎ。

私もすっかりN氏ファミリーの一員になっていた。

それからもある度にN氏ファミリーで集まったが、N氏は以前のようには元気はなかった。お二人の間に子供がいなかった事もあつてか、いつ死んでもいいという言葉も度々口にしていた。そんなN氏が心配で様子を見によく自宅まで行つた。それは皆も同じだった。N氏は生きる気力を失い、訪れる毎日は無意味でしかなかった。皆を包み込んでくれるあの優しさ、暖かさがなくなっていた。

そして恐ろしい病がN氏を襲った――。

二〇一九年八月、N氏は喉頭癌の手術を受け、声を失った。あの美しい歌声を聴くことは叶わなくなったのだ。それでもN氏が生きるという選択をしてくれた事に私は感謝した。

術後の辛い抗癌剤治療に耐え、やっと自宅で療養出来るようになったとお客さん

が教えてくれた。会いに行きたかったが、その頃は世界中に新型コロナウイルスが蔓延していた最中だった。電話で声を聴く事も出来ず、会いにも行けず、ただただ、N氏の回復を祈り続けた。

突然、N氏からLINEが届いた。携帯電話のメールも打てず、カラオケの機械操作も出来ないN氏から。一生懸命おぼえたのだろう、平仮名ばかりで誤字脱字もあり解説が難しいけれど、げんきですかと私を気遣ってくれている。それから何度かN氏は入退院を繰り返し辛い治療に耐えていた。つらい、しんどいというメッセージが届いたり、げんきになったらあいましょうと届いたり。

二〇二一年三月、治療を終え、自然豊かな場所に住まいを移したN氏に会いに行ける事になった。

どんなにN氏に会いたかったことか。

でもその日が近づくにつれ、少しずつ不安な気持ちが生まれて来た。あの時の様に気力のないN氏だったらどうしよう。声が出ないN氏とどうやって話せばよいのだろう。

その日は三月の気候とは思えないあたたかさで穏やかだった。電車とバスを

乗り継いでN氏の新居近くの公園に向かった。まだ蕾も見えない桜の木の下でN氏は待っていてくれた。

駆け寄るとそこにはN氏のあの優しい笑顔が——少しふっくらとして顔色もよく元気そう——



桜の木の下でお弁当と一緒に食べた。言葉はかわさずともN氏が伝えたい言葉は私の心の中につきつきと届いてくる——

何も難しくなんかないのだ。

N氏といると不思議とこの日のようにあたたかで穏やかな気持ちになるのだ。まるで陽だまりに包まれているようにぽかぽかとした……

N氏、いつも私の体調を気遣ってくれてありがとう。

私を娘のように可愛がってくれてありがとう。

そして何より、生きる選択をしてくれてありがとう。

N氏は、若くして亡くなられた奥様の分まで生きるとそう決めたのだ。

N氏は優しさと温もりで、人とその心までも包み込む「陽だまりのような人」
私もいつかそんな人になりたい。

また会い行きますね。

その時も沢山おしゃべりしましょう。

目と目を合わせて、心と心で……ね。



牛に関するお話

「真如寺客殿庭園の牛塔」
牛塔ぎうとう

真如寺住職 江上正道

本年は「丑年」です。干支の話は、通常なら新春がふさわしいかもしれませんが、牛にまつわるエピソードをいくつか紹介します。



「牛塔」(平安時代 全高 約225cm、全幅 約103cm)

これは「うしとう」とも呼ばれる牛の供養塔です。牛は、古来より人間生活、寺院建立工事、土工事、農耕などに欠かせない聖獣で、牛うし仏として大事にされ、また死んでもからも霊牛、神牛として供養されてきました。

牛仏は衆生の利益のため、牛の姿になって現れた仏とされ、牛王とも呼ばれ、インドでは、古来より神の使いとして尊敬をあつめました。ヒンドゥー教の主神ジヴァは弓・三尺の槍を携えて牡牛おすうし(ナンディン)に乗っており、また仏教でも、釈尊のことを「ゴータマ・ブツダ」と呼びますが、その「ゴ」は牛、牡牛のことを指すそうで、祇園精舎の守護神も牛頭天王ごずてんのうであるなど深い縁があります。

かの鑑真和上かんじんが在唐時、揚州の崇福寺仏殿建立中に、牛仏が出現して用材を探して運搬し仏殿竣工を助けたと言われ、わが国に於いても、聖武天皇が東大寺を建立している際に、牛仏が現れて困難な建造事業を完成に導いたとされ、「栄花物語」「今昔物語」をはじめ数多くの話にも登場する、身近な動物です。

信州の古刹として古くから全国的に知られる善光寺には、「善光寺信仰」があります。ある老婆が布を干していると、牛がやって来て角にその布を引っかけ、そのまま行ってしまいました。それを追いかけていくうちに、とうとう老婆は善光寺までたどり着いた、という逸話があります。この「牛に引かれて善光寺詣り」の話は、思わぬことがきっかけで、仏心、菩提心に目覚めた、というお話です。牛は観音菩薩の化身で、老婆を阿弥陀仏に引き合わせた、というわけです。

衆生を救済し浄土へ導く存在としても、広く信仰を集めてきました。

また、わが臨済宗で牛に縁深い人物といえば、江戸時代中期の白隠慧鶴^{はくいんえかく}禪師です。お生まれは、貞享二年（一六八五）十二月二十五日。これは丑年の丑の月、丑の日にあたり、誕生時刻も丑の刻であったといえます。その二十五日は、菅原道真公の月命日、つまり「天神さんの日」でもあることから親縁を感じ、自ら天神信仰を深め、『南無天満大自在天神』『渡唐天神』の文字絵や梅鉢紋の模様の『お多福』など、墨蹟を多数書き残しました。八十四歳でお亡くなりになっておられますが、これもまた丑年であったという、なんとも牛づくしなお方でありました。

さて、冒頭に少し紹介した眞如寺の庭園ですが、創建時は夢窓礎石（夢窓国師）が作庭し、「十境」と呼ばれる庭があったとされ、現在の客殿庭園は昭和十年代に、作庭師の田中泰阿弥^{たいあみ}（一八九八―一九七八）により修復されたものです。この牛塔は、他所より移されたもので、その伝来についての詳細は不明ですが、古いものと伝わります。同様の供養塔は、旧東海道の逢坂山関址に近い長安寺（滋賀県大津市逢坂）の牛塔が知られており、こちらは重要文化財に指定されています。皆様のお住まいの地域でも、牛をはじめとする動物や仕事で使った道具類などを供養する法要行事がありましようが、ご先祖様の供養と共に、今一度忘れがちな日々の生活における身近な物事への感謝を心掛けたいと思います。

本山だより（令和二年十一月～令和三年六月）

○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺（山木雅晶執事長）では開山忌並びに開基足利義満公の諷経が厳修された。本年はコロナウィルス感染症対策として、鹿苑寺執事長、執事のみにて執り行われた。

○禅文化研究所理事会

三月五日、公益財団法人禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久山財務部長が出席した。

○定期宗会

三月九日、各教区から登山した六名の宗会議員、評議会議長、鹿苑寺・慈照寺各代表、内局員全員の計十六名の出席のもと、令和二年度定期宗会が本山寺務棟桂芳軒で開催

された。佐分総長を導師に開山諷経の後、田中恵山師（第六教区龍源寺住職）を議長とし審議に入った。令和元度相国寺派・相国寺本山決算報告、令和三年度相国寺派・相国寺本山予算案、令和元年度承天閣美術館決算・事業報告、令和三年度承天閣美術館予算案・事業計画案が承認可決された。

○第四教区若狭少年研修会中止

例年四月初旬に開催する第四教区若狭少年研修会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。

○同宗連総会

四月十七日、超宗派六十五教団で構成される『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議（同宗連）の第四十一回総会が、コロナ禍中で



法堂にて諷経する一同

はあるが京都市内のホテルで開催され、江上
 教学部長が出席した。二年一期で各加盟教団
 が諸役を担当しているが、今春までの一期は
 相国寺派も監事として役員教団を務め、議事
 に於いて監査報告を行い、無事に次期担当役
 員教団に引き継いだ。今後の活動については、
 オンラインシステムの活用と実地研修会との
 ハイブリッド形式を模索したいとの意見が出
 された。

○祝聖・入制開講式

五月一日、本山にて例月の祝聖法要の後、
 入制行事が、その後、相国寺専門道場にて入制
 開講式ならびに大般若祈祷が執り行われた。

入制とは、制中に入ることを意味し、禪宗
 において厳しく修行する期間(安居)の始まり
 のことである。本日よりの修行の無事円成を
 祈念して、それぞれに諷経がなされた。



入制開講式



コロナ対策をして行われた同宗連総会の様子

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺(佐分宗順住職)では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。本年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、住職、執事長、執事、法類のみにて執り行われた。

(詳細は、東山だより99ページを参照)

○相国会本部役員会

令和三年度相国会本部役員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、文書会議にて議決された。

令和二年度事業報告、令和二年度決算報告、令和三年度事業計画案、令和三年度「相国会本部研修会」中止の件について、令和三年度予算案の五つの議案について郵送にて採決し、それぞれ承認可決された。

なお、本年度の「相国会本部研修会」は、提案された議案のように、中止となった。

令和三年度相国会理事、顧問は左記の通り。

理事		顧問
第一教区	片岡 匡三	澤 宗泰
第二教区	波多野 外茂治	牛江 宗道
第三教区	土倉 忠彦	梶谷 承忍
第四教区	伊藤 彰	木下 雅教
第五教区	杉原 定	加藤 文保
第六教区	工藤 義信	田中 恵山

○令和三年度春の特別拝観

三月二十四日より六月四日まで、春の特別拝観として法堂・方丈・開山堂を公開した。

今回の特別拝観では、手指の消毒、検温、受付パーテーションの設置等の感染症対策を行った。

また、今回の拝観ポスターでは、疫病退散を祈念し、額に清明紋の入った鬼瓦の画像を使っている。参拝者の方へのクイズとして、この鬼瓦がどこにあるかを探してもらい、



春の特別拝観ポスター



受付パーテーションと検温機



売店パーテーションと改装した店内

正解者には粗品を進呈した。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、春期、秋期ともに拝観を休止しており、約一年半ぶりの拝観再開となった。

秋の特別拝観は、九月十八日(土)より十二月十二日(日)まで、法堂・方丈・開山堂を公開の予定である。

○観音懺法会「ご先祖追善供養」中止

昨年新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった、観音懺法会「ご先祖追善供養」は、本年も同様の理由により中止となった。

例年、観音懺法会「ご先祖追善供養」として、伊藤若冲が両親と自分の永代供養のために、「釈迦三尊像」と「動植綵絵」計三十三幅を相国寺へ寄進したことにちなみ、伊藤若冲筆「動植綵絵」コロタイプ複製画三十幅を方丈に掛けて公開していた。

○観音懺法会

年中行事の一つの「観音懺法会」が、恒例により六月十七日午前七時半より厳修された。昨年に引き続き本年も、新型コロナウイルス感染症対策として、参拝者の受け入れは取りやめ、僧侶のみにて執り行われた。

前述の記事の通り、昨年に引き続き観音懺法会「ご先祖追善供養」が中止となったため、本年も文筆宗言筆「三十三観音図」を掛けて観音懺法会を執り行った。



諸役は次の通り。

◆役配

導師	昭文塔主(豊光寺副住職)
香華	宗秀塔主(林光院副住職)
自帰	豊光大和尚
打磬	泰量塔主(光源院副住職)
太鼓	正道東堂(眞如寺住職)
大鉦	景山座元(養源院副住職)
中鉦	文紹座元(光照寺住職)
小鉦	宗健座元(長得院副住職)
維那	普廣和尚

鼓鉦運び

周真座元(慈雲院副住職)
集信座元(瑞春院副住職)



観音懺法会での行導

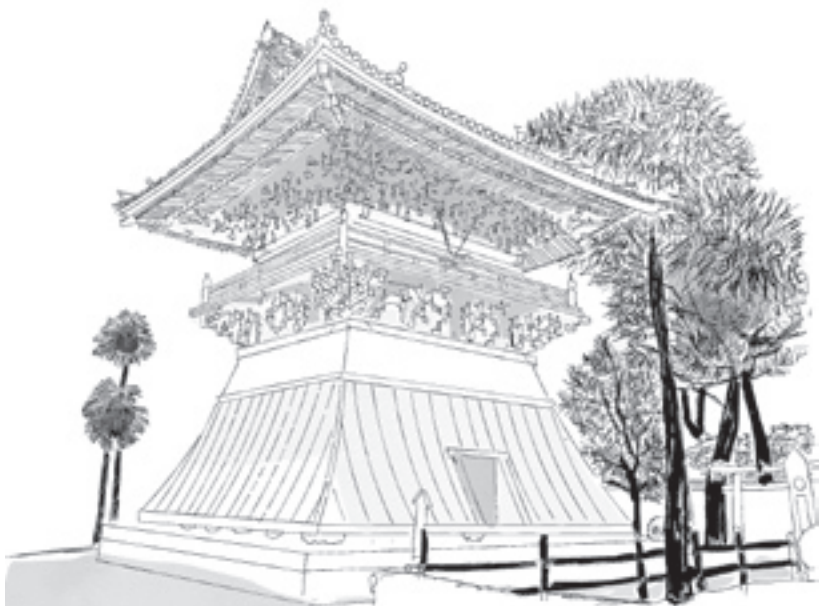
◆訂正のお知らせ

本誌第一一五号、「本山だより」四三ページ、小林老大師の開山毎歳忌香語(第三句読み下し)に脱字がありました(■部分)。左記のように訂正してお詫びいたします。

開山毎歳忌香語

悩乱箇閭那奔濤	悩乱す箇閭那の奔濤
相承巖陞不苦勞	相承の巖陞は不苦勞たり
願將無畏堂開貌	願わくば將に無畏堂の開貌
看夢窗威順疫騒	看夢窗の威に疫騒も順わんを

玄徳九拜
定中昭鑑



坐禅会のご案内

※現在、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本山維摩会ならびに東京維摩会は休止しております。

本山維摩会 ※現在休会中

◆毎月第二・第四日曜日開催(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

会場…相国寺 本山大書院

時間…午前九時より十一時迄

内容…坐禅(九時～十時半) 法話(十時半～十二時)

※最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧ください。相国寺(電話〇七五―三三〇三〇三)までお問い合わせ下さい。

東京維摩会 ゆいまかい ※現在休会中

会場：相国寺東京別院 方丈・客殿

◆有馬管長坐禅会

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：提唱、坐禅、茶礼

◆小林老師坐禅会

時間：午後一時より三時半迄

内容：提唱、坐禅、茶礼

※最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧ください。
相国寺東京別院（電話〇三―三四〇〇―五八五八）までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 方丈・客殿 玄関



TEL 03-3400-5858

会場：方丈・客殿

〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

坐禅のすすめ

現在、コロナ禍にあって、外出自粛が広く伝えられています。
今回は、自宅で一人でもできる坐禅を、ご紹介させていただきます。

① 静かな環境で

スマートフォンなどは離して、余計な雑音は除いてください。

② 楽な姿勢で座りましょう（調身）

座布団でも、椅子でも構いません。背筋を伸ばして、動かず安定する姿勢をとってください。

③ 呼吸をゆっくり深く（調息）

特に息を吐く方を「ゆっくり長く」と意識して行ってください。

④ 「なにもしない」をする（調心）

ゆったりと心を落ち着けて、頭の中を空っぽにしてみましょう。

一日五分〜十分で構いませんので、毎日すわってみませんか。



第一教区

○参道の舗装整備について

鹿苑寺（金閣寺）ではコロナ禍で参拝者が少ないうちに改修できる箇所を検討し、黒門から総門に至る参道の舗装整備が計画された。参道は大型車が通行すると土煙がひどく上がり参拝者に不快な思いをさせていた為、舗装ができないかが長年の課題であった。

昨年七月に発掘調査を行ったところ、室町時代の遺構面が浅い所から出てきた為、諦めかけたが、行政の方が視察された際、そのような場合でも他府県で施工した事例があるをご指導いただき、計画が具体的に動き出して今年二月に完成したものである。

参拝者が土煙を気にすることなく歩行できるようになったので、一日も早くコロナが収



工事後の参道

束して、以前の賑わいが戻ってくるのを願うところである。

○第一教区総会

二月十二日、第一教区宗務支所総会が相国寺宗務本所内で開催され、各寺院住職、副住職、ならびに閑栖和尚の計二十一名が出席した。昨年度の会計報告と、新年度の予算案について決議された。

○大光明寺「出町妙音弁財天」

大光明寺（矢野謙堂住職）では、飛び地境内の出町妙音堂で例年行っている「春季大祭」と、「巳の日法要」を、コロナウィルスによる新型コロナウイルスの蔓延に依り、参拝者の感染防止と安全確保のため、昨年に引き続き、無参拝法要とし、それぞれ四月二十二日と、五月九日に執り行い、慈雲院中山周真副住職も出頭した。大光明寺では十一月二十七日に「秋季御火焚祭」、来年五月四日に「第十回巳の日法要」



第一教区宗務支所総会

の開催が予定されている。

弁財尊天御真言

「おん そらそば ていえい そわか」



妙音弁財天「巳の日法要」

○眞如寺「半僧坊大権現疫病退散祈祷」

眞如寺（江上正道住職）では、五月初旬の週末に鎮守「半僧坊大権現」の御開帳、特別拝観を行っているが、昨年に引き続きコロナ



関係者のみで行われた祈祷誦経 撮影：柴田明蘭氏

ウイルス感染拡大を防ぐために参拝者の受け入れを中止し、五月九日に、お堂内で「疫病退散祈祷」の誦経を行った。

半僧坊大権現御真言

「おん なんのう ちりちり そわか」

第二教区

○定期総会

四月二十四日、九名の寺院代表者が出席して、二年振りに「定期総会」が開催された。昨年は新型コロナウイルスの影響を受け、中止せざるを得なかった。今年も未だ感染が収束していない中ではあったが、できる限り感染対策を取った上で、行うこととした。

本年度の第二教区「相国会支部総会」の開催は、慈照寺をお借りして六月下旬に予定している事などが報告された。

また、長らく中断している「第二教区子供

研修会」の再開について質問があり、「再開を考えている」との回答があった。

総会終了後には、懇親会を行い、教区内和尚の親睦を深めた。



第二教区定期総会

第三教区

○南苑寺消防訓練

一月二十六日、南苑寺（鳥取県三朝町・林光院澤宗泰兼務住職）にて消火訓練が行われた。当日は文化財防火デーでもあり、林光院副住職の澤宗秀師、倉吉消防署や三朝町消防団の約四十名に加え、倉吉消防署長の参列をいただき、地域を挙げての大規模な訓練となった。



消火訓練の様相



放水訓練

訓練は、落雷による林野火災などの想定に合わせて実施された。山の中にある寺のため、消防車二台のほかポンプ車も出動し、手順を確認しながら、放水も行われた。

南苑寺は大正十四年に橋本獨山禅師を開基として開創された寺院で、平成二十二年には国登録有形文化財に登録されている。

○瑞林寺夢窓国師毎歳忌

三月二十日、瑞林寺（三重県津市片田井戸町・長谷寺高山宗親兼務住職）では、開山毎歳忌を厳修した。

昨年同様新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から大本山からの出頭はお控えいただくと共に、参列者も瑞林寺役員のための少数にて、三密を避けて法要を行った。

当日、生憎の雨天のため、本堂前より夢窓国師生誕地記念碑を遥拝し、国師の生誕を祝した。



夢窓国師生誕地記念碑

第四教区

○若狭相国会 役員会

十一月十日、真乗寺に於いて開催。本部役員会（文書会議）報告、今後の予定について検討した。

○園松寺齋会

十二月五日、園松寺（本田真人住職）に於いて、先代住職の本田益基和尚の十七回忌法要を厳修する。法類、法縁・近隣和尚が十名出頭した。

○宗務支所 支所会

十二月八日、真乗寺に於いて開催。来年度行事について検討した。

○若狭相国会 役員会

二月八日、真乗寺に於いて開催。春季巡教、少年研修会について検討した。
結果、コロナ禍のため中止とする。

○若狭相国会 役員会

四月五日、真乗寺に於いて開催。令和二年度会計監査・令和三年度若狭相国会総会について協議した。

○宗務支所 支所会

四月二十七日、真乗寺に於いて開催。定期宗議会報告・令和二年度教区会計報告を行った。

○善應寺齋会

五月十一日、善應寺（五十嵐祖傳住職）に於いて、先代住職の山田策秀和尚の十七回忌法要をコロナ禍の為、一年遅らせて厳修した。

○若狭相国会総会

五月二十日、元興寺に於いて開催した。任期満了につき役員改選を行った。



若狭相国会総会に参加した役員の皆さん



園松寺で行われた先代住職十七回忌法要

第五教区

○出雲相国会三役会

●十二月二十二日、富田寺において開催。
この会議では、一月三日一派年始会後に
行なう富田寺三役との合同会議に向けて、令和二
年度末の会合日程から令和三年度に至る年間
事業計画について、協議致しました。

●出雲相国会・富田寺合同三役会
一月三日、雲州一派年始会終了後、富田寺
において開催。

今回初めて行う合同三役会は、出雲相国会・
富田寺それぞれの事業を或は連携し、或は日
程重複を避けて円滑に運営できるようにする
ための協議で、主に令和三年度の行事につい
て話し合いを致しました。



感染対策をとって行われた総会の模様

○南陽寺齋会

五月二十二日、南陽寺（加藤幹人住職）に於
いて、先代住職の林寛洲和尚十三回忌法要を
コロナ禍の為、一年遅らせて、当教区の僧侶
のみ出頭して厳修した。



南陽寺で行われた先代住職十三回忌法要

●四月十六日、富田寺において開催。

出雲相国会総会前の打ち合わせ。令和二年
度事業・会計報告並びに令和三年度事業・予算
案などの確認を致しました。



出雲相国会三役会

○令和二年度住職会(第二回)
一月三日、雲州一派年始会前に、富田寺において開催致しました。



第五教区住職会

令和二年度は、コロナ感染症対策という難題の中、事業の中止・開催両者についてご理解とご協力を頂いたことに感謝を述べ、会議を進行致しました。この会議では主に、全日本仏教徒会議島根大会や三月に行う予定の春彼岸の布教等についてご報告致しました。

○令和三年雲州一派年始会

今年も古より続く年始会を開催できた事に感謝いたします。

一月三日、雲州一派年始会を富田寺において開催致しました。

本年(令和三年)の年始会参加者は、雲州一派御寺院様と富田寺三役に加え、出雲相国会の三役の皆様にもお声掛けをし、ご参加いただく事となりました。住職会終了後、書院にて経前茶礼を営み、雲州一派御寺院様と恙なく新年を迎えられた事にお祝いの言葉を述べた後、本堂に於いて雲州一派開山和尚様と富田寺歴代和尚様の初月忌のお参りをして散会致しました。



雲州一派年始会経前茶礼



雲州一派年始会初月忌(左・下)



○出雲相国会理事会(令和二年度第二回)

三月十日、富田寺において開催致しました。この理事会は、令和二年度会計と事業報告に始まり、続いて令和三年度の事業と予算について協議致しました。この理事会を受けて開催する総会は、当初、昨年同様文書決議をと考えていましたが、「富田寺を会場にしっかりと感染対策を行えば通常開催できるのではないか」との多数の意見があり、勿論、総会当日までの感染状況を踏まえて判断しなければなりません、通常開催する方向で検討する事となりました。

○春彼岸會布教について

第五教区出雲相国寺派では、毎年三月の春彼岸を目安に布教を行っており、この布教に合わせて大般若祈禱會を営む寺院もあります。この出雲地区では、相国寺・南禅寺両派が連合して第五十六教区臨黄布教団を組織し、その両派を代表して理事を選出して会合を開き、

臨済宗連合各派布教団本部からの巡教を受け入れて、檀信徒の皆様の人生の糧となります様に助力に努めています。本部からの布教は、昨年(令和二年)、今年(令和三年)と二年にわたり感染症拡大防止を踏まえて派遣中止との判断がなされました。



春季彼岸會布教(上・下)



出雲相国会理事会

この本部よりの令和三年春彼岸の布教師派遣中止を受けて第五十六教区臨黄布教団では、理事会を開催し、令和三年の布教について話し合いを致しました。理事会の協議の結果、現在、島根県内のコロナ感染状況は落ち着いていることから、①県内者による布教 ②感染予防の徹底 ③感染状況に留意し、理事と布教師の緊密な連絡、以上の事を掲げて第五十六教区臨黄布教団独自で布教を立案し行う事と致しました。布教師は、第五十六教区臨黄布教団の会長でもある(南禅寺派)長源寺岸本恵親師にお願いをし、布教開催の判断については、各御寺院様に委ねて第五十六教区布教団所属寺院の皆様にご案内致しました。

第五教区出雲相国寺派では、数ヶ寺の寺院で布教を依頼され、三月二十三日・二十六日の間で行いました。

○令和三年度第一回出雲相国会総会

総会は、理事・代議員総勢十九名の出席で行



出雲相国会総会

い、令和二年度事業・決算報告に始まり、令和三年度事業・予算について協議を致しました。この会議では、未だ感染状況が収まりを見せない混沌とした世情のなかで、様々な御意見を頂戴いたしました。これらの意見を踏まえた上で本年度の事業について、今しばらく感染状況をみながら令和三年六月に行う理事会(第一回)に於いて判断する事となりました。

第六教区

○光明寺閑栖松本憲融和尚津送新忌斎

十二月十八日、鹿児島市の光明寺(松本昭憲住職)にて、相国寺より小林玄徳老大師を秉炬ひんこ導師にお迎えし、当教区より感應寺芝原閑栖

和尚を奠茶導師に、龍源寺田中和尚を奠湯導師に請じて、同寺第二十世憲融和尚の津送、新忌斎が執り行われました。

本派を代表し鈴木庶務部長からは、故人の功績、徳行をたたえる、弔辞である「誄」が拝読されました。また、所属されていた臨済宗連合各派布教師会からは長福寺様が、他に当教区寺院、縁故寺院が出頭のもと、法要が厳修されました。

弔問に来られた方々は門前にまであふれ、多くの人々に愛されてきた憲融和尚のお人柄が偲ばれた。

追伸 津送の際、気丈にふるまっておられた、先代寺庭の松本みずす様が、薬石効無く五月一日に逝去された。

令和三年度(雨安居) 相国僧堂 在錫者名簿

山口(南禅) 善福寺徒 難波宗翔
京都(相国) 大通院徒 釈 宗旦

研修会

【相国寺研究】

二〇二〇年度の研修会として、藤田和敏研究員による『明治期の臨済宗—宗政家と教団運営—』に続き、中井裕子研究員による講座「室町時代の相国寺領荘園」を二回にわたり、前回同様YouTube Liveによりオンライン開催致しました。日程は左記の通り。相国寺寺務棟二階講堂にて実施いたしました。

テーマ 「室町時代の相国寺領荘園」 講師 中井裕子氏

第一回 二〇二一年二月十六日(火)「相国寺塔頭の荘園—普広院領を中心に—」

第二回 二〇二一年二月十八日(木)「相国寺領荘園の終焉から太閤検地まで」

時間 午後二時開始(講演約九十分 質疑応答約三十分)

講義内容は左記URLの相国寺YouTube公式チャンネルでご覧いただけます。

(<https://www.youtube.com/channel/UCjy0wWcjqYPGwCLM7VgS7xQ>)

又は相国寺WEBページトップページ(<https://www.shokoku-ji.jp/>)の研修会のページからおはぐりください。

尚、この講座は二〇一六年の相国寺研究として実施いたしました左記の講座の後半です。

テーマ 「室町時代の相国寺領荘園」 講師 中井裕子氏

二〇一六年十一月十五日(火)「相国寺領荘園の形成—足利義満期を中心に—」

二〇一六年十一月十八日(金)「相国寺領荘園の運営実態について」

現代問題研究は引き続きキャッシュレス社会の問題を取り上げます。又これに関連して、業務や貨幣のデジタル化についても研究課題として京都仏教会と共催で研究会を開催する予定です。

【講義録発刊】

相国寺研究十一『明治期の臨済宗』 藤田和敏著

令和二年度 相国寺教化活動委員会研修会講義録

二〇二一年二月二十二日発行

目次

第一章 教導職制度と臨済宗各派の動向

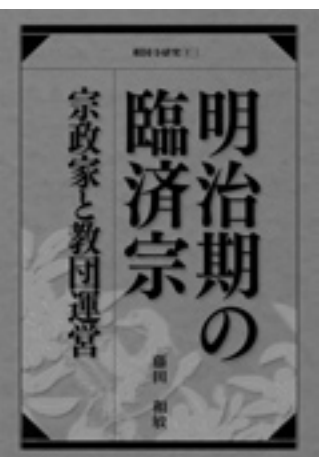
第二章 宗制寺法の制定と教育布教制度の開始

第三章 辣腕宗政家前田誠節と妙心寺派運営の実態

第四章 前田誠節の失脚と妙心寺派の危機

参考文献

参考資料 「妙心寺派憲章」



京都仏教会との共同研究

『新型コロナウイルス感染症対策—

持続化給付金と信教の自由』

相国寺教化活動委員会・一般財団法人京都仏教会

宗教と社会研究実践センター 編集発行

二〇二一年三月二十五日発行

目次

一 はじめに

「信教・学問の危機と分断支配」 田中 滋 龍谷大学名誉教授 宗教と社会実践センター主任研究員

二 第六回研究会 令和二年六月二十三日(火) 於 相国寺

「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)渦中対応および事後対策と「信教の自由」

講師 櫻井圀郎氏 宗教および宗教経営研究所所長教授・宗教と社会研究実践センター副所長

「政府の新型コロナウイルス感染症対策 持続化給付金問題と憲法」

講師 洗 建氏 駒澤大学名誉教授・宗教と社会研究実践センター所長

三 第七回研究会 令和二年九月五日(土) 於 相国寺

「持続化給付金と宗教をめぐる憲法上の課題 講師 桐ヶ谷 章氏 創価大学名誉教授・弁護士

四 資料

◆講義録発刊予定

相国寺研究『室町時代の相国寺領荘園』 中井裕子著

二〇一六年に行われた二回の講座の続きとして今回の講座と合わせて講義録とする予定です。

【出版物のご紹介】

●教化活動研修会『講義録』・『相国寺研究』(近年発行のバックナンバー)

相国寺研究⑨『慈照寺と無雙真古流』

井上 治著

相国寺教化活動委員会

二〇一八年九月十五日発行

相国寺研究⑩『足利将軍と中世仏教』

芳澤 元著

相国寺教化活動委員会

二〇一九年十二月三十一日発行



過去に発行した各講座および研修会の『講義録』をご希望の方は、一冊につき手数料一千円を添え、左記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。

各講座の参加申し込みや既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「資料室」・「書籍案内」をご覧ください。



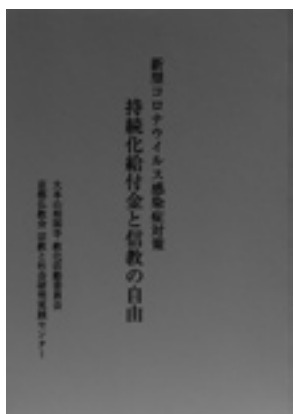
◆申込先

相国寺教化活動委員会

〒六〇二-〇八九八 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五-二三一-〇三〇一 FAX〇七五-二二三-五九一

ホームページ (<https://www.shokoku-ji.jp>)



相国寺史編纂室だより——応仁の乱後の鹿苑寺——

現在、編纂室では『相国寺史』第二巻 史料編中世二の編集作業を進めています。第二巻には応仁の乱から織田信長の入京直前までの史料を収録する予定です。応仁の乱で相国寺が壊滅的な被害を受けたことはよく知られています。一方、そのころの鹿苑寺については話題になる機会が少ないでしょう。今回は、応仁の乱後の鹿苑寺の状況がわかる史料をいくつか紹介してみたいと思います。

応仁の乱序盤である応仁元年（一四六七）六月二十二日に、山名宗全方（西軍）が鹿苑寺に陣取り、鹿苑寺の金堂以下を破壊しました。そのため無事であった建物は一つもなかったと『大乘院寺社雑事記』や『綱光公記』に

書かれています。この史料にある「金堂」は金閣のことと考えられます。相国寺だけでなく、鹿苑寺もまた戦乱による被害を免れなかったのです。

文明年間に入り、京都での戦いが落ち着いてくると、公家が北山付近を周遊し、石不動に御参りしたり、鹿苑寺の庭園を鑑賞したりしています。中御門宣胤は「山水は相替わらず希代の見物なり」と感想を述べています（『宣胤卿記』文明十二年（一四八〇）二月二十四日条）。

文明十七年（一四八五）十月十五日には、足利義政が鹿苑寺を訪問し、金閣に登ったことが『蔭涼軒日録』に記されています。その

前年にも義政は金閣を訪れており、これ以前に金閣の建物が復興していたことが分かります。

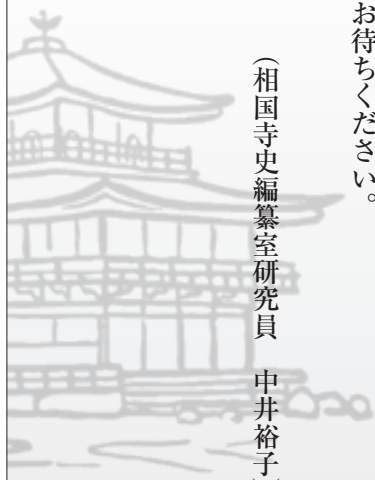
義政は金閣第一層の御座敷で接待を受け、その後、第二層・三層を見物しました。この時、第二層の潮音洞には、元の観音像が乱中に失われてしまったため、その観音像より小さな観音が安置されていました。第三層の究竟頂には、元々阿弥陀三尊と二十五菩薩がありましたが、「今は白雲ばかり相残る」状態でした。

復興した金閣は、禅林の文化サロンとしても利用されています。長享二年（一四八八）五月九日には、相国寺の詩僧が金閣で詩会を催し、庭園に浮かべた舟に乗り込んで詩を詠みました（『蔭涼軒日録』）。このとき、蔭涼職の亀泉集証が鹿苑寺客殿の修造現場を視察しており、金閣以外の建物も再建されつつあ

ることが読み取れます。

今回、紹介した史料は、いずれも『相国寺史』第二巻に収録される予定です。どうぞ、楽しみにお待ちください。

（相国寺史編纂室研究員 中井裕子）



訂正のお知らせ

本誌第一一五号70ページ上段に、左記のような誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。

（誤）維明周圭 ↓ （正）維明周奎

創業明暦年間  登徳商標 七味家 〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352 ゴヨウハシチミヤ 0120-540738 9:00~18:00(冬季は9:00~17:00) https://www.shichimiya.co.jp/	夢のある空間づくりのパートナー  トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理 TOTAL DISPLAY FUSHIMI KOHGEI 株式会社 伏見工芸 [本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地 TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465 [宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地 TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254 e-mail: fushimi_@d1.dion.ne.jp
三楽税理士法人 代表税理士 奥谷昌雄 代表税理士 内藤 誠 〒602-8026 京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地 TEL(075)256-2551 FAX(075)255-7461	<i>Future Active Alliance</i> office やまと パソコンからネットワーク・サーバ構築まで IT環境のトータルアドバイス 本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町19-13 TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494 中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺町29-62 TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0770 E-Mail: info@office-yamato.net
 寺社の電気、空調、防犯、防災設備 有限会社 土橋電気設備 〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4 まちゃまちゃ 105号 TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332	こころをつたえる 和文具 和雑貨 株式会社 表現社 〒602-0861 京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る TEL:075-222-1345 / FAX:075-222-1354 https://hyogensha.net/
お越しいただくあの方の為に あなたの想いの一番近くに  イベント設営・レンタルの京老舗 てらおかしものてん 有限会社 テラヲ貸物店 075-414-1464 office@terao-rental.com https://www.terao-rental.com	式典写真、風景写真など あらゆるニーズにおこたえます！ 柴田明蘭 写真事務所 (公益財団法人) JPS 日本写真家協会 会員 ☎ 090-8387-7735 FAX 075-311-9369 〒615-0057 京都市右京区西院東長町24 シェルブリュール 603

大本山相国寺御用達 社寺建築 (株)北村誠工務店 〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571	 〒604-8356 京都市中京区大宮通錦上ル 電話〇七五八二一三八七二
大本山相国寺御用達 庭園 設計・施工 樋口造園株式会社 〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル三軒町77 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120	大本山相国寺御用達 御法衣・仏具 (株)後藤利法衣店 〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587
大本山相国寺御用達 精進料理 矢尾 治 〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp	文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達 社寺建築 設計・施工 数寄屋建築  澤甚株式会社 澤野工務店 本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775 山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)
貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達 ✕ 後藤新助法衣仏具店 〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075) 462-3915番 ファクシミリ (075) 462-3616番 URL https://www.rinzai.jp E-mail: rinza@mail.plala.or.jp	天和三年創業 大本山相国寺御用達 藤安田念珠店 〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 TEL (075) 221-3735 https://ssl.yasuda-nenju.com/ 

広く
深く
つながる

創刊明治30年 宗教専門紙

中外日報

<https://www.chugainippoh.co.jp>

購読・試読サービスのお申し込みは
☎ 0120-015-177



京都本社 〒601-8004 京都市南区東九条東山王町9
東京支社 〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-13

TEL. 075-671-4800
TEL. 03-3816-4721

近代化する金閣
——日本仏教教団史講義——
藤田和敏 著

金閣・銀閣を擁する大本山相国寺、貴重な寺内史料から蘇る時代の变化に立ち向かい、法灯を守り続けた僧侶たちの苦悩と努力の歩み。

二、二〇〇円

相国寺史 第一巻
——史料編 中世——
相国寺史編纂委員会 編
原田正俊、伊藤真昭 監修



A5判・922頁
9,900円

相国寺史 第一巻
——史料編 中世——
相国寺史編纂委員会 編
原田正俊、伊藤真昭 監修

創建以来の地に、今なお伽藍を有する京都の名刹・相国寺。その六〇〇年余りにわたる歴史を見通す初の寺史。本巻は開山夢窓疎石誕生の建治元年（うづまき）文正元年（1466）までの関係史料を収録。

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458

法蔵館 <http://www.hozokan.co.jp> 新刊メール配信中！
表示価格は税込 お買上16,500円（税込）以上送料無料

大本山相国寺御用達

寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004
HP: nagaokazouen-kyoto.com

大本山相国寺御用達

京都市指定

有限会社 **丸水設備工業**

- 上下水道衛生設備 ●ボリング井戸 ●消火栓設備
- 庭園池の濾過設備 ●お墓の雨水処理 ●設計施工

〒603-8354 京都市北区等持院西町32
TEL (075) 462-8888(代) FAX (075) 462-8998



株式会社 **龍村美術織物**

URL: <https://www.tatsamura.co.jp/>

〒600-8033 京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四條寺町、南へ200M、西側)
TEL (075) 351-4092 FAX (075) 351-7231

京名物 **夷川五色豆**
京銘菓 **月しろ**

創業明治17年 京都 夷川 **豆政**

京都市中京区夷川通御馬場西入六丁目264
TEL 075-211-6211 FAX 075-211-4620

株式会社 **佛光堂**

〒600-8033 京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四條寺町、南へ200M、西側)
TEL (075) 351-4092 FAX (075) 351-7231



受け継がれるご奉仕の心を大切に

土産品
記念品

オリジナル商品
をお創りします

ACT MIYAKO 株式会社 アクトみやこ

〒615-8083 京都市西京区桂良町15-24
TEL. 075-634-5084 FAX. 075-634-5085
E-mail: taichi-matsuo@actmiyako.co.jp

ブライトホール
家族葬専用 **別邸**



公益社

☎ 0120-004-200
24時間365日対応 無料相談

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達
香老舗 松榮堂

京都本社／京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店／東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店／札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薫々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 横浜店 札幌店

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行
京都銀行

金沢本社社屋 東京本社社屋




なくてはならない印刷会社を目指して—

私たちは、業務効率化と情報伝達に関する「なくてはならない」
製品・サービスを提供することで、お客様の発展と新しい社会の実現に貢献します。

ヨシダ印刷株式会社 関西支店

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-8-3 新大阪サンアールビル北館6F
TEL.06-6305-7888 FAX.06-6305-7300 URL <https://www.yoshida-p.jp/> [営業所・工場] 富山・金沢本社・江東潮見
[金沢本社] 〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1 TEL.076-241-2141(代) [東京本社] 〒130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL.03-3626-1301(代)



情報セキュリティマネジメントシステム
ISO27001:2013



日本水なし印刷協会
認可工場環境保全対策



標準印刷認証
ヨシダ印刷株式会社
金沢本社工場
江東潮見工場

ANA CROWN PLAZA KYOTO



世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkkyoto.com

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

抹茶

令和二年 全国茶品評会 第一位
自園出品茶 農林水産大臣賞受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶

まんねのみどり
萬年乃羽翠

御薄茶

じょうこう
常光



大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)20・0909
・西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業
・京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)223・0909
・シェイアル京都伊勢丹店地下一階
・京都高島屋店地下一階和菓子売場
【お取り扱い】全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為に努力しています

電気設備工事・消防設備工事

ADACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

大本山相国寺御用達

文化財保存修理・文化財デジタル複製・文化財 IPM 調査・文化財調査
一般表具・絵画企画製作・漆/金箔施工・宗紋襖紙/御殿引手発売元

京表具 浩悦庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021 (代) /FAX(075)254-6022
東京営業所 TEL(042)442-0177 oversea@koetsuan.com

www.koetsuan.com E-mail: art@koetsuan.com

相国寺東京別院施工



誠心誠意 美しく正しい仕事を



株式
会社

水澤工務店

東京都江東区木場5丁目6番地1号
TEL 03-3641-7111
URL www.mizusawa-inc.co.jp



人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。

想いをかたちに 未来へつなぐ

 **TAKENAKA**

竹中大工道具館(兵庫県神戸市)
設計施工: 竹中工務店

株式会社 竹中工務店



皆さまのお役に立てる、
コインパーキング。

着実に、一步一步。

キョウテフ株式会社

本社

TEL **075-365-8000** FAX **075-365-8080**

〒600-8172 京都市下京区下平野町483番地1

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



URL <http://matsuishuzo.com>



享保十一年創業 清酒「五紋神蔵」醸造元

松井酒造株式会社

京都市左京区吉田河原町1の6 電話 075 (771) 0246

MIZUHO

One MIZUHO

お客さまから最も信頼される、 そして選ばれる証券会社へ

私たちは、〈みずほ〉が目指す、
「総合金融コンサルティンググループ」の唯一の総合証券会社として、
金融に関する高い専門性や質の高い商品力に磨きをかけることで、
お客さまに最良のサービスを提供できるよう、
全力で取り組んでまいります。

みずほ証券

京都支店 Tel.075-231-8881

〒600-8006 京都市下京区四条通柳馬場西入立売中之町99

One MIZUHO
未来へ、お客さまとともに

DNP

本業をデジタル印刷で実現し、印刷技術と情報技術を生かして、
DNP独自のデジタル印刷技術で文化遺産の保存と継承に貢献しています。

歴史を未来につなぐ技術。

私たちは、これまで培ってきた印刷技術と情報技術を生かし、
かけがえのない文化遺産の保存と継承に貢献しています。



未来のあたりきえをつくる。

日本印刷株式会社

建物の総合管理(警備・清掃・設備・植栽)

抗菌・抗ウイルスの効果が持続する薬剤

KYOH PARA Alivio

販売をいたしておきます。

SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)を対象とした
反応検査で不活性化を確認できました。

都総合管理株式会社

京都市上京区堀川通中立売上ル福大明神町13番地の1

TEL:075-415-0001

FAX:075-415-1155



京都人さえもが恋するホテル。



BRIGHTON
KYOTO

〒602-8071京都市上京区新町通中立売(御所西)

TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360

<https://kyoto.brightonhotels.co.jp/>

● 編集後記 ●

◇暑中お見舞い申し上げます。相国寺派寺院の檀信徒、相国会会員の皆様はじめ、各和尚様、関係者の皆様におかれましては、お変わりないでしょうか。わが国では本年2月より新型コロナワクチンの接種が医療従事者、次いで高齢者の方々から順に始まり、その効果に期待を寄せるところではありますが、いまだ先行きが見通せない状況が続いております。さらに「コロナ慣れ」なる言葉も生じ、「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」などの効力も鈍化しているようです。

◇さて今号では、本年米寿を迎えられた有馬頼底管長にインタビューする機会を得て、このコロナ禍中、いかに生きるべきかを宗教者の立場からご助言賜りました。鹿苑寺「金閣」屋根の葺き替え工事、伝統的雨庭研究会からは相国寺裏方丈庭園の雨庭調査報告、さらに本派の布教師からは「誌面説法」と、多くの原稿を頂き、第116号を発刊することが出来ました。長岡秀晃氏の連載「相国寺の庭園」は最終回となり、次号より装いを改め誌面を飾る予定です。また、ご縁ある関係各社様からは、厳しい経済状況下にもかかわらず、新たに広告を提供頂く事となり、ここに厚く御礼申し上げます。

◇相国寺本山では疫病退散の祈念をし、感染症対策を取ったうえで約1年半ぶりに「春の特別拝観」を致しました。承天閣美術館の企画展と共に、期間中境内には一時的に人の往来が戻りました。しかし再びウイルス感染者数、変異株による発症数などが急増し、「緊急事態宣言」再発令を受け美術館は一時臨時休館、6月17日の「観音懺法会」は僧侶のみの勤行、8月初めの「暁天講座」は中止、定期坐禅会の休止期間延長など、未だにその対応や判断に苦慮しているところですが、また、各寺院の法要行事や菩提寺の和尚様方の月参りなども少人数、略式で行うことが続くようでは、檀信徒の皆様が直接「仏法」に触れていただく機会は減少するかもしれません。

◇油断は禁物ですが、閉塞感のある今の生活を少しでも安楽だと感じることができれば、「コロナ慣れ」した今後の生活も穏やかに過ごせるのではないのでしょうか。「どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える能力」を「ネガティブ・ケイパビリティ (Negative capability)」と表現する、と教わりました。コロナ禍だからこそ急ぎ答えを出したり、理由を求めたりせずに、「禅的な」発想を日々の生活にも大いに取り入れ、「この日、この場所、この瞬間」の自分がいかに過ごせるか、いかに皆さんと共にできるかを引き続き考えたいものです。

◇早かった西日本の梅雨入りに続き、今夏も大変厳しい暑さが続きます。ワクチン接種が進み、これ以上ウイルス感染が拡大しないことを願い、また最前線の医療従事者への感謝の気持ちを胸に、お盆や秋の彼岸をお迎えいたしましょう。

(江上正道 記)

えん みょう
円明 令和3年(2021)夏号(第116号)
令和3年(2021)8月1日発行(年2回)

編集/相国寺派事務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <https://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

禅のことをもっと……



あなたが信仰されている臨済宗・黄檗宗の教理や歴史について、もっと知りたくありませんか？ 禅文化研究所では入門書から専門書まで幅広く発行いたしております。

おすすめ本のご紹介



童謡
禅のころを歌う
定価 1,430 円



維摩経
ファンタジー
定価 1,430 円



ナムカラタンノー
の世界
定価 4,180 円



季刊「禅文化」
年間購読料
5,280 円

書店やネットでも購入できます。価格はいずれも税込みです。

お申し込み、お問い合わせは下記まで



公益財団法人 禅文化研究所

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壹ノ内町 8-1 花園大学内
TEL 075-811-5189 FAX 075-811-1432

E-mail: info@zenbunka.or.jp <https://www.zenbunka.or.jp>

相国寺の庭園

第十回(最終回)

植昭 長岡造園 長岡秀晃

花蓮

「池の中に蓮華あり、大きな車輪の如し」極楽には蓮の華が咲いていると阿弥陀経で説かれているように、仏教と蓮の花は深い関係があります。

名前については諸説ありますが、花の中心部分が蜂の巣に似ていることから「はちす」と呼ばれ、それがなまって「はす」になったといわれています。

泥水の中にありながらも、神々しく美しい花を咲かせる姿に由来し「清らかな心」という花言葉が付けられています。泥水は我々が生きていく上での悲しみや苦しみである「煩惱」を表し、神々しく咲く花が「悟り」を表しているともいわれます。泥にまみれ、様々な悲しみや苦しみを経験しなければ悟りを得ることはできないと蓮の花が教えてくれているようです。

少し意味合いは変わってしまうかもしれませんが



夏の放生池

せんが、コロナ禍も悲しみや苦しみの一種ではないでしょうか。この辛い経験も人間社会が成長するための糧になるはずです。一人一人が出来ることは小さなことですが、コロナ終息という大輪の花を咲かせるために協力していきたいものです。とはいえ、感染者数の増加や自粛要請、変異株等暗い話題が多く、先の見通せない状況はまだまだ続くかと思います。そんな中ではございますが、今回紹介させていただく相国寺放生池の花蓮をご覧になって、ほんのひととき明るい気持ちになっていただければ幸いです。

放生池では二十七種類の花蓮を育成しています。花蓮は総じて四日ほどで花を散らします。初日と二日目は早朝に開いて、昼前から夕方にかけて閉じます。三日目に開いた後は閉じることなく、四日目にはほとんど散ってしまいます。

花の咲き方には「一重咲き」「八重咲き」「千弁咲き」があり、数の順に花のボリュームが増していきます。今回は各咲き方から一種類ずつ選んで紹介させていただきます。

まず一つ目は「楚天祥雲」です。一重咲きの中型品種で、白い花卉の先端が桃色になっているのが特徴です。放生池の環境がよく合うように、早い時期から遅い時期までかなりの数の花を咲かせてくれます。

二つ目は「落霞映雪」です。八重咲きの中型品種で、花は淡い桃色です。八重咲の花はボリュームがあります。こちらも放生池の環境が合うように、毎年上品な花を多く付けてくれる筆者のお気に入りの品種です。

最後に紹介するのは「玉泉寺妙蓮」です。妙蓮というと近江妙蓮が有名ですが、こちらは中国の玉泉寺をルーツに持つ品種です。千弁咲きと



落霞映雪



楚天祥雲

NHK VIDEO

「ライジング若冲～天才 かく覚醒せり～」

男たちの愛が、めくるめく美の世界を生んだ!?

衝撃の最高傑作「動植綵絵」誕生の秘密!

江戸時代の天才絵師・伊藤若冲^{いとうじゅくちゅう}。謎に包まれた天才の実像を初めて本格的にドラマ化。綿密な考証と大胆な仮説に基づき、アートなエンターテインメントとして世に問う話題作。

75分の正月時代劇版に15分の未公開シーンを追加した「完全版」を合わせて、DVD化!

時は宝暦年間。岩次郎(中川大志)が丁稚奉公する京の玩具屋に、僧・大典^{だいてんけんじょう}顯常(永山瑛太)がやってきた。そこで謎めいた絵に大典は興味を引かれる。描いたのは錦市場の青物問屋の主・榎屋源左衛門^{えのやげんざえもん}(中村七之助)。女性や芸事に一切興味がないが、いい年で始めた絵にすっかりはまってしまった男だという。その源左衛門はある時、路上で茶をたてる謎の仙人・売茶翁^{ばいさおう}(石橋蓮司)と偶然出会い、「若冲」という名を譲ってもらう。そして売茶翁の紹介で、大典と運命的な出会いを果たす。大典は若冲到こう告げた。「あなたにはこの世の森羅万象を描いてもらいたい」。そして若冲は大典の取り計らいで、京の寺にある絵の模写修業に努めるのだが・・・傑作「動植綵絵」の影にあった男たちの絆とは?!



〈特典映像〉

disc1 ライジング若冲 見どころ紹介
ライジング若冲紀行
あてなよる 漬けで呑む

disc2 ライジング若冲 天才かく覚醒せり[完全版]

〈封入特典〉

ブックレット(予定)

【作・演出】源 孝志

【音 楽】阿部海太郎

【出 演】

中村七之助 永山瑛太
中川大志 大東駿介 門脇 麦
渡辺 大 市川猿弥 木村祐一 加藤虎ノ介
永島敏行 石橋蓮司

2021年8月27日発売 6,600円(税込)

■商品のお申し込み・お問い合わせ
NHKエンタープライズ ファミリークラブ
0120-255-288 (受付時間/9:00~18:00)
インターネット <https://www.nhk-ep.com/>

呼ばれるだけあって蕾の中には花卉がぎっしりと詰まっています。一重咲き・八重咲きの品種は花が上を向いて咲きますが、玉泉寺妙蓮は花が重たいため自重で横を向いたように咲くのも特徴の一つです。

放生池では六月上旬からお盆頃まで多くの花蓮が目を楽しませてくれますので、感染対策をしっかりと取った上で是非ご覧になってみてください。おすすめは咲き始めの花も閉じていない早朝の時間帯です。

平成二十九年の正月号(第一〇七号)から連載させて頂きました「相国寺の庭園」も十回目となり、今回で一区切りということになりました。このような貴重な機会を与えて頂きましたことに、深く感謝申し上げます。次号からはテーマを変え、庭師の目線で樹木や草花の紹介をさせて頂く予定です。どうぞご期待ください。



玉泉寺妙蓮

鏡湖池周辺整備の法要について

鹿苑寺では五月十一日に、鏡湖池周辺整備完了を祈念する法要が、澤前執事長（現慈照寺執事長）・和田前執事（現承天閣美術館事務局長）をお招きし、山木執事長と澤執事の四名で執り行われました。

平成二十八年より五年にわたり行われた、鏡湖池南池の整備がメインの事業でしたが、それに加え、金閣・舍利殿の屋根葺替と参拝門の屋根及び監視所の完成も含めての法要となりました。

参拝者は受付でお礼を受取り、雨の日でも濡れることなく参拝門でパンフレットを手にすることができるようになりました。参拝門を通り過ぎると南側に綺麗に整備された南池



新参拝門



南池跡地の庭園



落慶法要

跡地の庭園を眺めることができ、昨年三月に開通した新参拝路を通り、広く感じられるようになった踊り場から、屋根が葺替わり、より一層輝いた舍利殿を目にする事になります。

今は、コロナ禍で参拝者は非常に少ない状態が続いています。が、一日も早く収束して、沢山の方の歓声が聞こえる日を待ち望んでおります。

慈照寺開山毎歳忌並びに開基慈照院殿毎歳忌

慈照寺では、毎年五月二十一日に、開山夢窓国師並びに開基慈照院殿毎歳忌が行われます。本年はコロナウイルス感染拡大が依然として収束の見通しがつかない中、佐分宗順住職の導師のもと、昨年に引き続き塔頭寺院への拝請は控えさせて頂き、法類様方のみのご出頭・ご加担で執り行いました。当日は、総代様はじめ銀閣寺門前関係の一部の方のみのご案内という、小規模かつ感染対策をしっかりとした形での法要開催に努めました。



法要中の模様



開山夢窓国師頂相



雨上がりの庭園風景

例年よりも少し早い梅雨入りの為、法要前日よりの大雨で一部の地域で警報が出たりしており、銀閣寺に於いても庭園の銀沙灘が崩れる等のトラブルが在りましたが、当日の朝方には落ち着いた天気に戻り、ご案内の方々全員に御参詣頂き、無事に法要円成いたしました。

相国寺 秋の特別拝観

令和3年9月18日(土)～12月12日(日) 拝観時間：午前10時～午後4時

※例年と拝観期間が変更となりました。

※10月18日(月)～21日(木)は、開山忌法要のため拝観を休止いたします。

※10月3日(日)、4日(月)、5日(火)、12月8日(水)は法要・行事のため拝観時間に一部変更があります。

拝観場所：法堂・方丈・開山堂

拝観料：一般・大学生 800円／65才以上・中高生 700円
※団体割引有り ※法要・行事のため予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。



法堂内「蟠龍図」



拝観にあたってのお願い

- 入口での検温を行い、37.5℃以上の発熱があった方は、拝観をご遠慮いただく場合があります。
- マスクの着用および手指の消毒をお願いします。
- ソーシャルディスタンスの確保にご協力をお願いします。



裏方丈庭園



龍王図 梅莊顕常賛 維明周奎筆

江戸時代 紙本墨書 一幅

偉大なることだ、角をもつ頭で撃てば、触れた所の崖は崩れ、石は裂ける。青々とした地は長らく日照りで枯れている、龍よ、汝の一声、激しい雷をもって、雨を降らせるのを助けてほしい。右は、仏光国師が、幕府の執権貞時の為に、龍の図に着賛し、即時に雨が降った、その賛だという。寛政元年(一七八九)、相国寺本山に祈雨道場を設けた。維明周奎の描いた龍王像を用い、余(梅莊顕常)がその上部に着賛した。



本図は寛政元年(一七八九)に相国寺の寺領、山之内(現在の京都市右京区)の村民の願いにより、雨乞いの祈禱を行った時に制作された龍王図です。相国寺第一一五世、維明周奎(二七三〇～一八〇八)が描き、一三三梅莊顕常(一七一九～一八〇二)がその上部に讃を書きました。龍王は仏法を守護し、その神通力で雲をおこし空中を飛び雨を降らすとされ、雨乞いに用いられました。

江戸時代の相国寺の日記によると、維明達相国寺僧による雨乞いは同年六月一日の晩に始まり、維明も「連日之請雨呪二声キレ」てきた六月九日、ついに大雨が降り、祈禱が成功したことがわかります。さらに箱書によると、梅莊顕常はこの後も永く祈雨に用いるよう、この霊験あらたかな龍王図に着賛をしたといえます。その賛の前半は、鎌倉時代の無学祖元(一二二六～一二八六)にあやかっただけです。無学祖元が幕府の執権、北条貞時(一二七一～一三二一)に請われ龍の図に着賛すると即時に雨が降りました。その時の無学の着賛を梅莊顕常が維明の龍王図に記し、箱書の制作を命じ、維明達による雨乞いの成功を後代に伝えたのです。

七朝國師徽號

後醍醐天皇宸翰
廣弘明教國師爲靈志山臨川輝奇關山事
石書寺靈志山臨川輝奇關山事
也之後以復命爲前名仍加有朝寄附國師今敬弘
法利王之地專致國師太平之稱特重地大王通稱
之而向矣
建武二年十一月十一日
先明帝宸翰
正覺國師號
風生隆盛得勝正宗昨日朕承教事爲難祖道崇興
宗門輝輝時時夢忘正覺國師 自和元年十月六日
先感帝宸翰
心宗國師號
蓮珠三朝之盛四海主大龍岸再轉法輪東傳極權
教攝廣聖衆時曾獲註字已交緊要茲將良風令教
人法法通是靈志山靈志山靈志山正覺心宗
國師
觀應二年十月八日
後光嚴帝宸翰
普濟國師號
朕以教化之廣若佛法之傳統論禪宗惟得
多門歸納爲正覺國師十六世王國無異通時盛乎法
說、出於大方普濟多慶中及達靈氣中前高峻而
後大龍岸其國者 寺本朝有夢覺彼者以不出山
而轉國師以上人者實爲正朝國師中是官將歸初
回夢覺國師次加以正覺人加以心宗朕居潛位時
特上實批聖教賜判濟音及也今以佛法之利永以
不設特賜三會降下項 永益以表師資之禮仍瑞
如號曰夢覺正覺心宗普濟國師 建武二年九月六日
後國師帝宸翰
玄猷國師號
應今南釋、寺王正院與大地俱長久寺 伏惟
夢覺正覺心宗普濟國師自宋萬年時曾通傳王教
扶桑之帝時尊高教祖身政略名柱行實降而歸就
王猷國師號以此良目朕知會到三會之建正護正
法自上王得下王之時 應安五年十月十九日
後花園帝宸翰
傳統國師號
初 雖往高風傳授夢於日城曾達靈志山通勝流於
龍門實非地極之彼英華學判祖之嫡統夢覺正覺
心宗普濟玄猷國師無學之嫡統傳國之真子奉
取書於三代就徽號於王朝此王釋之清世嫡統
朕受法承而通化法家續而加康寧時益口休統
國師
寶德二年庚子八月廿七日
後土御門帝宸翰
大國國師號
初 靈山學堂球大書之明鏡風光養の時王夫之
臣多自想存臣於法論志入氣富於其教夢覺正覺
心宗普濟玄猷傳統國師傳祖王嫡統氏家應步而
先之榮華五十號之增進鳴臨於百世訓靈翰於
六朝經開來而重一統之統英王傳授而結主業
之千寶大哉敬頌教書及如唐瑞祥臨曰大國國師
久明五年十月廿七日

文化第四歲次丁卯九月晦日謹寫歷代
奉書揚軒殿序

開山堂扁額

七朝國師徽號

文化四年・一八〇七 相国寺藏
縦八〇・〇×横二五九・〇cm

七朝帝師とは、相国寺の勸請開山である、夢窓疎石（一二七五〜一三五二）をさします。「夢窓」は建武二年（一二三三）に後醍醐天皇から授けられた国師号で、その後も六人の天皇に追号され、合計七人の天皇の師、七朝帝師と称されました。足利尊氏など武家からの帰依も篤く、門弟も多く禅宗の五山派中最大の門派でした。相国寺は夢窓の没後に足利義満によって創建されましたが、その中心となった春屋妙葩は夢窓疎石の法嗣の一人で甥にあたり、自身は第二世となり、夢窓を勸請開山として第一世としました。相国寺の開山堂は、その夢窓疎石の尊像を中心に祀っています。



開山堂内の七朝國師徽號

本扁額は夢窓疎石に授けられた七つの国師号の勅書を刻したものです。後醍醐天皇からの夢窓国師号、光明天皇からの正覚国師号、光厳上皇からの心宗国師号、ささらに夢窓没後にも後光厳天皇からの普濟国師号、後円融天皇からの玄猷国師号、後花園天皇からの仏統国師号、後土御門天皇からの大円国師号と七人の天皇からの国師号の勅書が並び刻され、七朝帝師と称された夢窓の遺徳を偲びます。この額は文化四年（一八〇七）、相国寺第一一五世維明周奎（一七三一〜一八〇八）の発願により成ったもので、この年に相国寺は、天明の大火で焼失した後水尾院再建の開山堂にかわり、桃園天皇の女御、恭禮門院より寄進された御所の黒戸殿を開山堂としました。その開山堂に安置された夢窓の木像の前の檐に、令和元年の修理を経て、現在も掲げられている扁額です。

とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

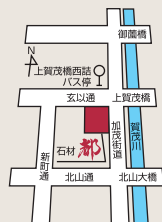
株式会社 石 杖 都 みやこ



相国寺供養墓



社長 吉田 健次
会長 坪田 忠男



正月以外無休 営業時間／AM 8:30～PM 6:00 (日曜日PM 5:00まで)

本 社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 (上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)

工 場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 (洛北病院バス停前) 電話(075)702-2440

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。

心のすがた
千里同風 (祖堂集)

離れても
等しく仏の
慈悲のもと



相国寺墓苑 六地藏 撮影◎教学部